

磁石力ノ
傳信機ハ
誰ガ發明
セシカ

タイラー
ノ期限中
會議ノ終
如何ナル
勤チナセ
シヤ

○其ハ前ニ唯僅ヲ知ラレタ大平洋ノ種々ノ部分ヲ巡視シタリシ而シテ遙カ南ニ於テ或ル大切ノ發明ヲ爲シタ○此等ノ中ニ千七百七十里ノ距離ノ間廣ル所ノ南洋ニ於テ陸地ノ大ナル形體ノ其レガアリシ○此レハ今南極大陸トシテ知ラル、

(6) 人間ノ心ノ其大ナル勝利ノ磁石力ノ傳信機ガ千八百四十四年ノ春ニ於テ始メテ實地ノ働キニ持チ來ヨサレシ發明人ハマサチヤセツツノ土人タルサミユル、エフ、ビー、モアー、スデアリシ

○其ヲ試ルルニ於テ彼ヲ補助センガ爲メニ會議ハ三萬圓ヲ與ヘタリシ○線ガ華盛頓トバルチモアーノ間ニ架設サレシ而シテ充分ナル成功ヲ以テ働クベシ見ラレシ○電信線ガ速カニ總テノ方向ニ於テ國ヲ貫通シ在リシ

(7) タイラーノ期限中會議ノ終結ノ議定書ノ中ニ合衆ニテキサスヲ許スヲカ在リシテキサスハメキシコノ國デアリタリシ其ハ重ニ合衆國カラノ移住民ニ由テ住居サレシメキシコニ依テ壓制サレテテキサス人ハ獨立ト彼等自身ヲ布告シタリシ而シテ種々ノ困難シテ得タル勝利ニ由テ彼等ノ位置ヲ所有シタリシ○猶メコシコハ彼等ノ獨立ヲ承諾セヌデアロウ○合衆國ニ許容ニ向ヒテ二度テキサスガ請求シタリ而シテ千八百四十五年ニ於テ人民ガ其ノ惠ニ於テアリシ彼ノ女ガ姉妹ノ國トシテ許サレタリキ

第五十五章

ゼイムスケーポーク、メキシコノ軍

(原書百七十五頁)

一千八百
四十五年
三月四日
ニ大統領
トナリシ
メキシコ
ノハ誰
ゾヤ

最初ノ二
ツノ戰
ハ誰
ノ話
トナリ

テローア
ノ陣營
ニ於テ第
二ノ所置
ハ如何

(1) ゼイムス、ノツクス、ポーク○テンネツツシーノゼイムス、ノツクス、ポークガ千八百四十五年三月ノ四日ニ於テ大統領トナリシ合衆ニテキサスヲ許スヲガ大ニメキシコヲ怒ラセシ○境界線ガ決シテ其國ト而シテキサスノ間ニ一致サレナンタリキメキシコ人ハ全ク主旨ニ於テ合衆國ト條約スルコトヲ拒ミシ而シテ彼等ガ求メシ境界カ許サレシナレハ軍ニ脅セシ合衆國ハ之レガ取ルベク頗ル高キ地デアリシコトヲ考ヘシ而シテ戰爭シタル領地ヲ占ムル爲メニセミンノールノ軍ニ於テ善キ勤務ヲ爲シタリシ所ノ總督シヤチヤリーテローアニ命令セシテローア一帯ヲ建テ而シテ兵糧ノ貯藏場ヲ其カラ凡ソ二十里ニ建テ、奮發シテ從ヒシ

(2) メキシコヲ以テノ戰○メキシコ人ハ速カニ兵器ニ於テアリシテローアノ兵ハ僅デアリシ而シテ彼ノ兵糧貯藏場ガ取ラレ得シコトヲ恐レテ彼ハ防禦ノ策ヲ以テ其ニ準備スル爲メニ彼ノ兵ノ中軍ヲ以テ進軍セシ右ニ迄彼レノ歸路ニ於テ彼ノ路ニ爭フ爲メニ引レタル彼自身ノ如キ夫ダケノ大サノ二倍ノメキシコノ兵ヲ見出セシ軍ニ於テ第一ノ戰爭ガ俄ニ起リシ千八百四十六年五月八日此ハハローアルトノ戰爭トシテ知ラル、其ハ翌日猶嚴シキ戰ヒニ依テ次ガレシ○此等ノ兩方ニ於テ米兵ガ十分ニ勝利デアリシ○彼等ハ誰モ甚ダ速ニ皆ニ達セザリシ其ハ敵カラノ恐ロシキ砲撃ヲ受ケタリシ乍然守兵ハ剛勇ニ堪ヘタリシ

(3) テイローア一ハ速カニ敵ヲ攻撃スルコトヲ始メシ○彼ハ是時ニ由テ新手ノ兵ヲ受ケタリシ如何トナレハ彼ノ最初ノ二ノ戰ノ新報ガ受ケラレシトニ要セラレシヨリハ猶多クノ義勇兵ガ軍ニ

向ヒテ彼等自身ヲ申陳シ故ニメキシコ人ハモンタラノ堅固ノ府ニ彼等ガ達ルヤデタイロアー
 ガ進ミシダケ退去シテ他ノ者ノ後チ一ノ場所ガ取ラレシ此場所ハ大ナル死亡ナシニ非ズト雖
 モ暴撃ニ依テ勝タレシテローロアーハ進軍スベシ接續シ而シテ千八百四十七年二月ノ二十二日ニ
 於テメキシコノ總督サンタアンナ及ヒ彼自身ノ多寡ノ三倍ノ兵ノ面前ニ於テアラビスタニ
 依テ彼自身ヲ見出セシサンタアンナハ降服スベシ呼ビシ總督テローロアーハ決シテ降參セ
 ヌト返答ガアリシ○汝ガ地圖ニ於テハローアルトモンタラ及ヒアラビスタヲ見出シ能フ
 カヲ見ヨ

(4) プワナヅイスタニ於テノ戰爭ガ恐ロシシアリシ○米兵ガ敵ノ壓スル處ノ數ニ向テ彼等ノ地
 チ保チシコノ其レハ彼等ノ砲兵ノ落付キタル勇氣及ヒ老練ノ使用ニ依テノミアリシ○殆ソド
 葡萄彈ヲ彼等ニ與ヘヨ甲比丹アラビスタ後ハアラビスタノ善ク命令シタル大砲ノ前面ニ動搖ス
 ル敵ノ縱隊ヲ視シ時ニテローロアーガ落付テ云ヒシ○日没ガ戰場ノ所有ニ於テ米兵ヲ殘セシ○
 朝ニ於テサンタアンナ及ヒ彼ノ兵ガ退去シタルコトノ其ガ見出サレシ○此ハ各々ノ向キニ名譽
 デ有ツタリシ處ノアローロアーノ陣ノ終リテアリシ

(5) 總督テローロアーハ戰爭ニ於テ充分ニ落付テアリシ○一ト度メキシコ砲丸ガ快クアルコトニ
 寧ロ甚ダ密ニ來リテアリシキニ彼ハ彈丸ガ經過セシキニ彼等ノ頭上ヲ屈メル所ノ彼ノ周圍ノ
 人ニ注意セシ○避テ勿レ紳士ヨ兵士ハ避ケテハナラヌト老練ノ士ガ云ヒシ○丁度然時ニ彼レ
 ヲ避ケテハナラヌト老練ノ士ガ云ヒシ○
 ヲ避ケテハナラヌト老練ノ士ガ云ヒシ○

アラビスタ
 イスタニ
 於テノ戰
 争ノ景況
 ハ如何

當時戰爭
 ニ於テノ
 重ナル指
 令官ハ誰
 ニ委任サ
 レシヤ

此戰爭ノ
 結果ハ如
 何

何處ニ終
 向テ敵
 ニ向テ敵
 ガ集メラ
 レシヤ

ガ夫レヲ知リシ前ニ彼レガ彼自身ニ避ケテアリシコト程左様ニタイロアーノ頭ニ迄密ニ恐ロシ
 キ彈丸ガ側ニ鳴リシ○彼ノ人ハ心カラノ笑ニ迄發セシ○總督ハ彼等ニ一致セザルヲ得サリシ
 ○儲テ汝ガ撰ムナラバ汝ガ彈丸ヲ避ケ得ル乍然走りナスナト彼ガ云ヒシ

(6) スコットノ陣營○軍ニ於テ重モナル命令ガ今總督スコットニ任セラレシ彼ハ他ノ部分カラ
 攻撃ヲ企テシ而シテ敵國ノ首府ナルメキシコニ於テ上陸セシ○亞米利加ニ於テ最モ強キ砲臺
 ノ一個ニ依テ守禦サレタルメキシコノ灣ニ於テノヴェラクルーズガ最初ニ襲ハレタ而シテ劇
 シキ砲撃ノ後デア取ラレシ

(7) 是場所カラスコットハ國ノ内部ニ進ミシ彼ガコーデイルヤラスニ達セシマデ彼ハ一ノ抵抗
 ニ出會ハザリシ乍然其處ニ銃鎗ノ尖頭ニ於テ岩礁多キ路ヲ通行シテ彼ノ路ヲ強テセザルヲ得
 ザリシメキシコノ軍隊ハ敗北シサンタアンナハ後ロニ彼ノ木製ノ脛ヲ殘セシコトホド左様ニ彼
 等ノ退軍ガ急テアリシ
 (サンタアンナハ星ガ切ラレテナキ故木製ノ脛ヲ以テ間ニアハ) 其ガ米兵ニ依テ見出サ
 レ而シテ勝利ノ號トシテ本國ニ送ラレタ

(8) 總督スコットハ彼ガメキシコノ首府ノ近邊ニ達セシマデ彼ノ進軍ヲ續ケシ汝ハ百六十八紙
 葉ノ地圖ニ於テ彼ノ進路ヲ見出スデアロウ茲ニ敵ガ終リノ抵抗ニ向テ聚マリタリキ○彼等ノ
 人數ハ米兵ノ其ニ大ニ越ヘシ而シテ彼等ハ首府ニ近チ衛護セシ處ノ強キ城構ノ連續ニ依テ守護
 サレシ○此等ハ米兵ノ部ニ於テ嚴シキ戰ト而シテ信シ難キ盡力ノ勢力ニ依テ逐次ニ取ラレシ

何處ニ終
 向テ敵
 ニ向テ敵
 ガ集メラ
 レシヤ

千八百四十七年九月十四日ニ於テ總督スコット及彼ノ人ハ凱旋ニ於テメキシコノ首府ニ入りシ○暫時ニシテ國ノ北方ハ衆兵ニ由テ擊撃サレ而シテ打勝レタリシ○合衆國ハ到ル處勝利デアリシ而シテメキシコノ政府ハ今條約ニ來ルヲ好ミテアリシ○條約ガ爲サレタ其ニ由テメキシコハテキサスノ境界ニ於テ爭論アル領地及ビニユーメキシコ及アツブルキヤリフオニヤ國其ハ既ニ打勝タレタ處ノ合衆國ニ讓與セシ○合衆國ハ此等ノ廣キ地方ニ向ヒテ千五百萬圓ノ間ヲ拂出スヘシアリシ

大英國ト西北ニ於テ境界線ヲ取極メルトデアリシロッキーマント而シテ太平洋ノ中間ニ在ル處ノチレブントシテ知ラレタル國ノ大ナル部ガ兩國民ニ依テ請求サレシ○其ガ速カニ住居サレテアリシ其カ境界ヲ極定シタベシ要用デアリシ而シテ此ガ爲メニ終ニ或ル困難ヲ以テ成功サレシ

總督テイロアノ勤務ガ人民ノ贈物ニ於テ最モ高キ役ヲ以テ報酬サレシ○彼ハ千八百四十九年ニ於テ大統領ニ爲サレタ而シテ新約克ノミルラードフヒルモニアガ同時ニ於テ副大統領ニ撰與サレシ

第五十六章

テイロアト及ビフヒルモニア

(原書百七十九頁)

- (1) テイロアノ管理○メキシコノ軍ニ於テ總督テイロアノ勤務ガ人民ノ贈物ニ於テ最モ高キ役ヲ以テ報酬サレシ○彼ハ千八百四十九年ニ於テ大統領ニ爲サレタ而シテ新約克ノミルラードフヒルモニアガ同時ニ於テ副大統領ニ撰與サレシ
- (2) キヤリフオニア汝ガ記憶スルキヤリフオニアハメキシコニ依テ合衆國ニ讓與セラレシ千八百四十九年ニ於テ大發明ガ其處ニ爲サレシ○職工ガ其光ヲ以テ彼ノ眼ヲ取りシ所ノ或ル土砂ヲ吟味シテ金ヲ以テ混合シテアルベシ其ヲ見出セシ其他ノ吟味ガ金銀ガ夥多アルヲ現セシ○新聞ガ廣カリシ○數千人ガ俄ニ世界ノ部カラ金ノ地方ニ群集セシキヤリフオニアガ速カニ殖民サレシ而シテ今テイロアノ期限ニ於テ早シ一國トシテ許ルサルベシ請求セラレシ

十八年ニ於テナシヤ

如何ナル困難ガキヤリフテリニヤノ許諾ニ就テ起リシヤ

如何ナル遠征軍ハ千八百五十年ニ於テ合衆國カラ派遣サレシヤ

八百四十八年ニ於テ大發明ガ其處ニ爲サレシ○職工ガ其光ヲ以テ彼ノ眼ヲ取りシ所ノ或ル土砂ヲ吟味シテ金ヲ以テ混合シテアルベシ其ヲ見出セシ其他ノ吟味ガ金銀ガ夥多アルヲ現セシ○新聞ガ廣カリシ○數千人ガ俄ニ世界ノ部カラ金ノ地方ニ群集セシキヤリフオニアガ速カニ殖民サレシ而シテ今テイロアノ期限ニ於テ早シ一國トシテ許ルサルベシ請求セラレシ

(3) 南方ノ人民ハ黑人ノ奴隸ヲ所有シ北方ノ其等ハ左様デ非ザリシキヤリフオニアハ自由ノ國トシテ來ルヲ要求セシ○前年ニ奴隸ノ勤務ハ定線ノ南ノ總テノ地方ニ於テ許サレ而シテ其北ノ凡テヨリ除カレテバナラヌヲノ契約ガ爲サレタリシ只今キヤリフオニアノ部分ハ此線ノ南ニアリシ故ニ多クハ其制度ノ一タル奴隸ノ勤務ヲ以テノ外ハ其ヲ受ルヲニ反對セシ○忿怒ノ人情ガ起サレシ其ハヘンリークレイガ講和者トシテ現ハレシマデ平和セザリシ○許容カ兩方ニ由テ爲サレシ而シテ一致ノ議定書ガ會議ニ依テ議決サレシキヤリフオニアハ奴隸ノ勤務ナシニ許サレザリシ

(4) 議論ガ進ミテアリシ間ニ國ガ其長官ノ爲メニ哀哭スベキ第二ノ時ト名ケラレシ善良ノ總督テイロアノ死セシ而シテフヒルモニアガ大統領トナツタ

(5) 千八百五十年ニ於テ無法ナル遠征ガキユバニ對シテ竊カニ合衆國ニ於テ備ヘラレタ其愛ムベキ島ノ人民カ西班牙ノ管轄ヲ倦キテアリシ而シテ合衆國ニ入ルヲノ或ル僥倖ヲ喜ヒテアルデアラフヲノ其ガ考ヘラレシ○此ハ誤リデアアルベシ見出サレタ○合衆國カラ六百ノ冒險者ガ島

如何ナル遠征軍ハ千八百五十年ニ於テ合衆國カラ派遣サレシヤ

如何ナル困難ガキヤリフテリニヤノ許諾ニ就テ起リシヤ

如何ナル遠征軍ハ千八百五十年ニ於テ合衆國カラ派遣サレシヤ

アノ期限
中ニ利益
アル出来
テハ如何
ナルモシ
テアリシ
誰ニ依テ
繼續サレ
シヤ

如何ナル
出来テハ
依テビヤ
代ノ初ガ
高名サレ
シヤ

ビヤース
時代中ノ
最モ大ナ
ル出来テ
ナキ事

如何ナル
事情ガビ
アノ期限
中ニ利益
アル出来
テハ如何
ナルモシ
テアリシ

一千八百
五十七年
ノ終リニ
於テ如何
ナル事ガ
起リシヤ

ニ上陸セシ乍然西班牙ノ軍隊ヨリ激戦ノ外ハ一ノ迎遇カ彼等ヲ待タザリシヲ見出シテ彼等ハ速ニ乗船セシ翌年等シキ企テナセシ○冒險者ハ是時ニ攻撃サレシ而シテ敗ラレシ而シテ彼等ノ數多カ彼等ノ首長ヲ含有シテ殺サレシ

(6) テーロアアノ而シテヒルモアノ支配中關係ノ無二ノ殘ル所ノ出来事ハ英ノ探索者ザーシヨ
ンフランクリンノ命運ヲ決スルヲニ於テ補助スル爲ニ南極海ニ向テ二ノ遠行ヲ備ルヲ及ヒ南
キヤリナノシヨシカローンケンタツキーノヘンリークレイ及ヒマサヤセツノダニエ
ルウエブスタート云ヘル亞米利加ノ三人ノ重ナル政事學者ノ死デアリシ

(7) フヒルモアハメキシコノ軍ニ於テ總督トシテ勤務シタリシ處ノニウハムフシヤノフラ
ンクリンビルスニ由テ千八百五十三年三月四日ニ於テ繼カレシ

第五十七章

フランクリンピアースゼームスブカナン

(原書百八十一頁)

(1) ビアースノ期限ノ始ガ萬國博覽會ノ開設ニ依テ拔シテラレシ○鐵及玻璃カラ建テラレタル
水晶宮ガ新約克ニ於テ企ニ向テ建テラレタ○外國人ダケ夫ダケヨク隔タリタル國ガ彼等ノ物
産ヲ出セシ而シテ數千人ガ國ノ總テノ部分ガ博覽會ヲ巡回セシ

(2) ビアースノ期限ノ最モ大ナル事件ノ一ハ日本ト通商ヲ開クヲデアリシ○日本ハ大平洋ニ於
テ種々ノ大ナル島ヨリ成立ツ所ノ一ノ大帝國デアル○其ハ已前ニ他ノ國民ト爲スベキ或ル者

ヲ持ツヲ避シ處ノ銳敏ナル乍然殊別ノ人民ニ依テ占有サル○是富タル帝國ト貿易ヲ開ク
ノ志望ニ於テ大佐パリーガ種々ノ進物及大統領カラノ書翰ヲ保テ艦隊ヲ以テ夫ニ派遣サレ
タリシ○熟練ノ取り計ヒニ依テ彼ハ條約ヲ爲スベシ而シテ二ノ港其ニ於テ合衆國ノ商人ガ買
易ヲ得シ處ノ二ノ港ヲ設ケルベシ帝國ニ説キナセシ

(3) 其處ニカンサス及テブタムカト云ヘル二ノ地方ヲ整理スルヲニ付テビアースノ期限ニ於テ
大ナル奮激ガアリシ彼等ハ同意サレタ所ノ古キ線ノ北方ニアリシ故ニ或ル者ハ奴隸ノ勤務ガ
彼等カラ除カレシヲ云ヒシ乍然他ノ組合ハ同意ガ自由ノ國トシテキヤリフオニヤノ許容ニ
依テ既ニ破壊セラレタリシト而シテ奴隸ノ勤務ノ趣意ニ於テ彼等自身ニ向テ決斷スルヲ其
ガカンサス及ヒチアラヌカノ人民ニ迄委任セラレテハナラヌヲ要セシ○終リノ者ガ勝シカ
ンサスハ速ニ賣奴法ニ抵抗セザルト而シテ賣奴ノ法ニ抗スル殖民地ノ間ガ烈シキ争ヒノ場トナ
リシ而シテ爭カ終ラレシ以前多シ血ニ濺レシ

(4) 千八百五十七年三月四日ニ於テ高名ノ政事學士ノペンシルヴァニアニゼームスブカナンシガ
大統領ニ任セラレシ○同年ノ秋ニ於テ大ナル厭惡ガ商業世界ニ起リシ○銀行ヲ停止シ製造所
ハ閉鎖シ多クノ商法人ハ衰ヒシ而シテ一般ノ驚愕ガ流行セシ○商業ガ振起セシ而シテ國ガ回復
セシ以前其ガ或ル時デアリシ

(5) モルモンズ人トノ困難ガ彼等ノ領國ニ迄軍勢ヲ派遣スルベシブカナン氏ヲ餘儀ナクセシ

南亞米利加 加ハ強キ 海軍ヲ派シ

ツヨクシテ 而シテ彼ノ人ノ企 載セヨ

何ガ千八 百六十年 夏ニ於テ 起リシ

何處ニ東 方ガ立ラ レシヤ

千八百六 十年ニ誰 ガ大統領 職ヲサレシヤ

ミストル リンコル ンハ何時 大統領ニ ナリシヤ

モルモン人ハ合衆國ノ住ハレタル部分カラ遙カ遠キユターニ於テ住シ是處ニ彼等ト彼等自 身ノ支配人ヲ指名スルコトノ權力ヲ要求シテ一般ノ政府ヲ蔑視セシ乍然軍隊ガ彼等ノ重ナル首 府ノ近邊ニ於テ到着セシ時ニモルモン人ハ彼等ノ勢力ヲ改變セシ而シテ合衆國ノ法律及ヒ威 權ヲ傾載スベク同意セシ

(6) 南亞米利加ノ州ナルバラシウニハ憤怒ノ種々ノ原因ヲ吾等ノ政府ノ與ヘタ所而ノ賠償ヲ爲 スベク慨ヒク所デ一千八百五十八年ノ終ニ方ニ強キ海軍ガ其國ニ派遣セラレシ暴烈ナシニ出 來ベクナラバ困難ヲ極ル爲メニ事務官ガ船舶隊ニ同伴セシ而シテ彼ハ左様ニ爲ヌコトニ於テ成 功ヲセシ

(7) 一千八百五十九年ノ秋ニ於テヴァージニアノハーパーヌラエリーニ於テ合衆國ノ武器倉庫

ガシヨンプラウン及ビ二十一人ノ黨與ニ依テ取ラレシ而シテ奴隸ノ中ニ一揆ヲ引起スベク企テ ナセシ乍併其ガ全ク衰微セシ舉動ガ第二ノ日ニ於テ合衆國ノ水兵ニ依テ鎮定サレシ黨類ノ十 三人ガ戰爭ノ爲メニ斬殺セラレシプラウン及彼ノ黨與ノ六人ハ絞殺セラレシ唯二人ガ逃レシ

(8) 一千八百六十年ノ夏七十一人カラ成立所ノ日本カラノ使節ノ到着ニ依テ抽ンデラレシ彼等 ハ大統領ノ花押ニ向ヒテ同意サレタリシ所ノ條約ヲ携ヘシ○日本人ハ國民ノ容分トシテ接待 サレシ且一般ノ優待ヲ以テ尊敬サレシ○彼等ハ彼等ノ候間ヲ以テ多少満足サレシ而シテ南亞 米利加ノ技藝及ヒ工業ノ多クノ様式ヲ彼等ト與ニ取歸リシ

(9) 感動スベキコトノ他ノ物體ガ殆ンド同時ニ其自身ニ現セシ○此ハ世界ニ於テ最大ナル巨大ノ 汽船グレートイスマターンデアリシグレートイスマターンハ「英吉利」ニ於テ造ラレシ而シ

ニユイヨリシ迄初航ヲナセシ其ハ長サ一里ノ八分ノ一餘デアリシ而シ候間者ノ數十人ヲ誘ヒ

シ其ノ或ル者ハ人ノ精工ノ此ノ奏功ヲ見ル爲メニ數英里程ヲ來リシ

(10) 一千八百六十年ノ秋ニ於テイルリノイズノアブラハムリンコルンカ大統領ニ撰舉サレシ○ 奴隸ノ勤務ニ向ヒテ恐レ南方ノ主謀者ハ彼ガ撰舉サレシナラハ連合ヲ破ルベク務カシタリシ

○彼等ヲ和合スヘキ凡テノ盡力ガ無功デアリシ○ニケ日ノ以內ニ南キヤロリナニスシビー フロリダーアラハマジョーシヤロイシヤナト及ビテキガス國ノ七ハ彼等ガ合衆カラ退キ即チ

分離シタリシコトヲ告ゲシ○一千八百六十一年二月四日ニ於テ彼等ハ亞米利加ノ同盟國ノ名目

ノ下ニ別ノ合衆ヲ形ヲ造リシニスシ、ビーシヤツフアーソンタビスカ大統領ニ撰舉サレシ

(11) 其時會議モ亦大統領ノドヤラモ分離ノ防禦スベキ或ル者ヲ爲サバリシ別レタル國ニ依テノ 砦武庫及ヒ他ノ財貨ハ俄カニ軍隊ヲ形ヲ造ルベク始メタ處ノ同盟黨ニ依テ取ラレシ○千八百 六十一年三月ノ四日ニ於テリンコロン氏ガ大統領ノ椅子ニ於テ彼ノ坐位ヲ取りシキノ事務ノ 有様ハ實ニ愛ノ容貌デアリシ

第五十八章

内亂ノ始

(原書百八十四頁)

(1) チヤレストン港ニ於テノラオート、サムターハ南方ノ軍隊ノ大隊ニ依テ脅サレシト雖モ少佐

アンダーソンノ下ノ合衆國ノ守兵ニ依テ尙ホ保タレタ○リンコルン氏ノ最初ノ策畧ノ一ハ是
 砦ノ救援ニマデ糧食及人ヲ送ルヲデアリシ乍然彼等ハ其ニ到達スベシ許可サレザリシ○猶少
 佐アンダーソンハ降参スルヲ辭セシ而ノ同盟ノ總督タリシ總督ボレガードガ四月十二日ニ
 於テ恐ロシキ暴行ヲ始メシ○三十四時間ノ后ニ守護兵ハ砦ヲ去ルベシ迫ラレシ而ノ其ガ同盟
 軍ノ手ニ落チシ

(2) 大統領リンコルンハ直ニ人ニ向ヒテ信實ナル國ニ求メシ而ノ信實ナル返答ニ遇シ○之ニ反
 シテサムタトノ落ルヲ後暫時ノ内ニヴァアージニヤアーカーンサス北キヤリロナ及ビテンチツ
 シーノ猶ホ四國ガ同盟ニ結合セシ南方ノ軍勢ハ速ニヴァアージニヤニ見捨ラレシ而ソリッ
 ンドガ同盟ノ首府デアリシ

(3) 暫時華盛頓ガ同盟軍ニ依テ嚴確ニ脅カサレシ乍然義兵ガ其防禦ニ急ギシ而ノ聯邦ノ軍勢ノ
 命令ハ老練ノ總督スコットニ委任セラレシ○速ニヴァアージニヤニ先進ヲ爲セシ○總督マリク
 レランノ下ノ軍隊ハ數多ノ勝ヲ得シ而ノ國ノ西ノ部分カラ同盟軍ヲ追ヒ出セシ○東ヴァ
 シニヤニ於テ總督マンドウエルノ以下ノ軍隊ハ左様ニ成功ガアラザリシ

(4) ブルラン○華盛頓カラ西方ニ進シテ總督マンドウエルハブルラント稱呼サレタル流ニ於
 テ強ク置レタル同盟軍ヲ見出セシ○彼ハ彼等ヲ追ヒ出スベシ試ミシ而ノ疎暴ノ戰ガ續キシ○
 最初ニ聯邦軍ガ勝ヲ持シ乍然敵ノ新ノ縱隊ノ來レル譯ニ於テ彼等ハ終ニ大ナル失ヲ以テ敗ラ
 ン

レシ○恐怖ガ合衆ノ徒黨ヲ取而ノ同盟軍ノ大ニ内外ノ兩方ヲ強クセラレシ

(5) 戰爭ガ速ニミソリニ迄廣ガリシ是國ハ猶信實デアリシ乍然同盟軍ハ合衆カラ其ヲ奪フ
 ベク強ク試シ○夥多ノ戰爭ノ一ニ於テ勇猛ノ總督リヨンガ死セシ所ノ多ノ戰ノ后彼等ハ國ノ
 西南ノ部ノ領地ヲ得ルヲニ於テ成功セシ○之ニ反シテ合衆國ノ軍隊ハ北キヤリロナノハツタ
 ラスイソレットニ於テ同盟ノ砦ヲ奪ヒ南キヤリロナノポートロヤルフ美ナル港ヲ保護シテ大
 西洋ノ海岸ニ於テ多ノ勝利ヲ得シ(二百四紙葉ノ地圖ヲ見ヨ)

(6) ブルランニ於テ不幸ノ以後總督マリクノレランハポトマツクノ軍ヲ命令スベク呼ハレシ○ヨ
 リ多ノ人ガ興起セシ而ノ聯邦軍ハ二度攻撃ヲ犯セシ○十月二十一日ニ於テ彼等ハポトマツク
 ニ於ルポールノ岬ニ於テ大ナル損失ヲ以テ敗ラレシ○翌月ニ最初ニ或ル勝利ヲ得ルヲノ后彼
 等ハミソリノベルモントニ於テ不意ニ出遇ヒシケンタツキーハ其自身中立ト報告シタ乍然
 同盟軍ガ國ヲ攻撃セシ而ノミシシツビー河ニ於ケルコロムブスニ於テ強キ砲臺ヲ立テシ

(7) 封港○同盟軍ハ兵器、彈藥、及び多ノ他ノ物品ノ大ナル要求ニ於テアリシ○此等ヲ得ルヲカ
 ラ彼等ヲ防禦スベク、聯合政府ハ全キ南方ノ海岸ヲ封港セシ詳ニ言ハハ、出ル處或ハ入ル處ノ
 總チノ船舶ヲ掠奪スベク強キ海軍ヲ備ヘシ○乍然早キ蒸氣船ガ西印度ニ迄綿ヲ輸出シツ、而
 ノ最モ多ク要サレシ處ノモノヲ持返リツ、暗夜ニ於テ聯合ノ船ヲ經過シテ走ルヲニ於テ成功
 セシ

(8) 此等ノ封港サレタル走者ノ一人ガ英吉利及ビ佛蘭西ニ迄使節トシテメイソン及ビスリヤルノ同盟ノ主張ノ二人ヲ取出サレシ○彼等ハ英吉利ノ蒸氣船ノ甲板ニ於テ得ルヲニ於テ成功セシ乍然サンシヤシントーニ於テ大尉ウイルクスニ依テ調査サレシ而シテ合衆國ニ迄連レ歸ラレシ○此ハ英人ヲシテ怒ラシメシ、而シテ始メド英吉利ト戰ニ迄導キシ其ニ向テ同盟軍ガ甚ダ心痛ノアリシ、○乍然英吉利政府ガ虜ノ引渡ヲ求メシ時ニ、合衆國ハ速カニ彼等ヲ見棄テシ、而シテ斯様ニシテ戰ガ避ケラレシ

第五十九章

一千八百六十二年ノ舉動

(原書百八十九頁)

(1) 一千八百六十二年ノ始ニ於テ同盟軍ハ戰場ニ於テ凡ソ三十五萬人ヲ所有セシ○彼等ノ中軍ハブルランカラ遠カラザルマナサスニ於テアリシ(百八十五紙葉ノ地圖ヲ見ヨ)而シテ彼等ノ砲臺ハローアボトマツクヲ命令セシ是時ニ於テ聯邦ノ軍隊ハ凡ソ五十七萬五千人ヲ計算セシ○年ニ於テ早ク聯邦ノ總督シヨージ、エツチ、トーマスガケンタツキーノミル、スプリングスニ於テ要用ノ勝利ヲ得シ而シテ同盟軍ハ其國ノ東方ノ部分カラ退ハレシ

(2) 大佐フートハ或時ノ間イリノイスノカロニ於テ聯邦ノ政府ノ爲メニ砲船及ビ砲艦ノ艦隊ヲ軍備シテアリシ○一千八百六十二年二月ニ於テ是艦隊及ヒ總督グラントノ下ノ陸兵ガ多ノ砲大砲及糧食ヲ以テテンチツシ一河ニ於ルフオート、ヘンリー而シテカンバーランドニ於ルフオート、ドナルソンヲ奪ヒシ○汝ハ百八十九紙葉ニ於ケル地圖ニ於テ此等ノ砦ヲ見出シ能フカ

一千八百六十二年ノ始メニ於テ如何ニ多ク人ガ戰場ニ於テ聯邦軍ヲ保チシヤ

大佐フートハ海路ニ於テ何ヲ用意セシヤ

ローノツク島ニ於テ上陸ノ景況ヲ問フ

大ナル艦隊ハ何處ニ留リシヤ

丁度此時ニ於テ如何ナル戦争ガアルリヤ

ヲ見ヨ○敵ハ斯様ニシテケンタツギーカラ退クベシ追ラレシ而シテテンチツシノ首府ナラヴイルガ速クニ後ニ聯邦ノ軍隊ニ依テ占有セラレシ

(3) 同月ニ總督バーンサイドト而シテ大佐ゴルツボローガ強大ノ陸軍及海軍ヲ以テローノク島ニ於テ首尾好キ上陸ヲナセシ(二十九紙葉ノ地圖ヲ見ヨ)彼等ハ勇シキ抵抗ニ會合セシ乍然島ニ於テ置レタル三千ノ同盟軍ヲ捕フルヲニ於テ成功セシ○是場所カラ遠征ガ北キヤロリナノ海岸ニアル種々ノ他ノ場所ニナサレタ○敵ノ船ガ敗ラレシ彼等ノ軍隊ガ撤除サレシ而シテ彼等ノ糧食ガ奪ハレシ○取ラレタル要用ノ場所ノ中ニニウバーン而シテビウフオートガアリシ

(4) 七一、モーニートアー○大ナル聯邦ノ艦隊ハセーム大河ノ口ニ近キハムプデン、ローヅニ於テアリシ○或日ニ同盟軍ニ屬スル處ノ而シテヴァーシニヤト名稱サレタル強キ甲鐵艦カノ一フオーシカラ進ミ出デシ而シテ艦隊ニ乘リ進ミシ○カムバーランド及ビコンングレツスト云ヘル木造船ハ彼等ノ齊發カ彼等ノ甲鐵ノ敵艦ノ厚キ甲鐵ノ上ニ一ノ感情ヲ爲サヌ所デ速カニ破ラレタ(木造船ノクセニ敵ノ甲鐵艦ノ強キヲ知ラ)然時ニ黑暗カ起リタ而シテ甲鐵艦カ退去セシ

(5) 翌日は恐ルベキ敵ガ港ノ内ノ各ノ船舶ヲ沈ルデアロフ而シテ然時ニ北ノ港ヲ暴ス爲メニ遁ルデアロウノ其ガ恐レテアリシ乍然夜間ニ甲比丹ウオーデンニヨリテ命令サレタルモニートアト云ル小キ浮ブ所ノ砲艦ガ新約克カラ到着セシ○翌朝彼女ト大胆ニヴァーシニヤニ會合セシノフチークニマテ不意當ニシテ彼女ヲ追ヒ返シタ而シテ斯様ニシテ艦隊ノ殘餘ノモノヲ

ライノエーブル

誰が此島
ノ因捕ス
ルヲ企
テシヤ

何處ニ敵
ガ彼ノ軍
勢ヲ攻
セシヤ

四月ニ於
テ如何ナ
ル城塞ガ
取ラレシ
ヤ

補助セシヅアーシニヤガカムバーランド及コングレツスヲ破リタル所ノ同日ニ於テ總督カー
 ナスガ三日暴行ノ戰ノ後アーカンサスノピアリツギニ於テ同盟軍ヲ敗シ
 (6) 同盟軍ハ猶ホロアーミシビイチ命令シタ彼等ハケンタツキー及ミシシッピノ海岸ノ間
 ノ其河ニ於テ第拾號ノ島ニ於テ強キ砲臺ヲ所有セシ總督ボート及大佐フートガ此要用ナル場
 所ヲ奪フヲ企テタ○彼等ハ島ヲ排退スベク迫ラレタ所ノ五千余ノ同盟軍ヲ虜ニ爲シテ充分
 ニ成功デアリシ砲船ガ然時ニ河ヲ下リシ而ノ敵ノ艦隊ヲ敗リシ而ノテンテツシノメムフイ
 ス府ガ直チニ降服セシ

(7) シローノ戰爭○フオート、ヘンリー及ヒドチルツンヲ奪フニ次キテ總督グラントハ南方
 ニ進行セシ○四月六日ニ於テ敵ハシローノ原ニ於テ彼ノ軍隊ヲ攻撃セシ○戰ノ第一日ニ同盟
 軍ハテンテツシ河マテ聯邦軍ヲ追ヒ出シ彼等ノ多クヲ殺シ而ノ虜ニセシ而ノ亡滅ヲ以テ全
 軍ヲ脅セシ○乍然砲船カ敵ヲ止メシ而ノ夜間グラントハナスヰイルカラ進ミタル處ノ總督
 ビユールノ下ノ軍隊ニ依テ援兵サレシ翌日戰爭ヲ再ビ始メテ彼ハ敵ヲ追ヒ返シ其ハミシツ
 ビーノ東北部ニアルコリンズニ退去セシ○聯邦軍ニ依テ彼方ニ續ガレテ彼等ハ彼等ノ武器庫
 ヲ毀テシ而ノ場所ヲ放テ去ツタ

(8) 四月ニ於テ早クサグアンナノ府ノ重ナル防禦タリシフオートハラスキハ同盟軍カラ取ラレ
 タ此ガ爆彈ノ襲撃中ニ彼ノ艦隊ノ部ヲ以テ府ノ下ノ砦ニ走リタ所ノ水師提督フアルラートニ
 依テニウ、オルレアンズノヨリ多ク要用ノ掠奪ノヲニ依テ次ガレシ○砦ガ速ニ降服セシ而シ
 テ砲船ハ河ヲ上リテ他ノ大切ノ場所ヲ取リシ

第六十章 一千八百六十二年ノ舉動ノ續キ (原書百九十頁)

(1) マクシレラン半島ノ戰爭○ポトマツクノ軍勢ハ同盟軍ノ首府ニ於テ先進ニ向ヒテ冬ヲ通シ
 テ用意シテアリタリシ○彼等ガ掠奪ヲ始メシ時ニ敵ハラバハノツタ河ニマテ退キシ(百八十
 五紙葉ヲ見ヨ)マクシレランハ彼ガゼームスト而シテヨークノ河ノ中間ノ半島ノ通路ニ依テ
 最モ多ク容易クリツチモンドニ達シ能ヒシト考ヘシ○其故ニ彼ハゼームス河ノ口ニ於テラオ
 ートレツス、モンローニ彼ノ軍隊ヲ移セシ而ノ其場所カラ掠奪ヲ始メタ○敵ハヨークタウン及
 ウイリヤムバーグニ於テ彼ノ先進ニ抵抗セシ乍然退クベク脅カシ而ノ聯邦ノ軍隊ハ終ニリツ
 チモンドノ七里以内ニ到着セシ

何故ニマ
クシレラ
ンハ援兵
サレザリ
シカ

何ノ爲メ
ニポトマ
ツクノ軍
勢ハ豫備
サレシヤ

マクシレ
ランノ本
195

(2) 茲ニマクシレランハ止リシ而ノ援兵ヲ要求セシ乍然政府ハ華盛頓ガ脅迫サレシ故ニ或ル者
 ヲ彼ニ派遣シ能ハザリシ○五月三十一日ニ於テ同盟軍ハファイヤ、チークスニ於テ彼ヲ攻撃セ
 シ○彼等ハ遁ヒ返サレシ乍然マクシレランノ損失ハ大クアリシ○其ニ於テ聯邦軍ガ在リシ所
 ノ不壯健ノ池沼ガ又タ速ニ其隊列ヲ減少シテ在リシ
 (3) マクシレランハ今彼ガ砲船ノ保護ヲ持チシ而ノヨリ多クノ人ニ對シテ待チ能ヒシ所ノゼー
 ムス河ニ彼ノ本宮ヲ變スルノ其ヲ要用ト見出セシ○此舉動ヲ爲スノ間ニ彼ハ敵ニ依テ烈

陣ハ何故ニ變セシヤ
總督レ一及ヒ其結
果ヲ問フ

何ヲ總督
レハハ次
ニナセシ

如何ナル
據所ガス
トシウチ
ニルシヤ
クリンニ
依テ掠奪
サレシヤ

シシ攻撃サレタ血戰ノ接續ガ七日連續シテ次キシ○聯邦軍ガ終ニゼームス河ニ教導セラレシ
7ノ其ハ大ナル損失ト而ノ苦痛ヲ以テノミアリシ

(4) レーノ第一進入○今安全デアリシ而ノ總督レーハ彼ノ中軍ヲ以テ華盛頓ヲ取ル爲メニ北方
ニ進シ○首府ノ防キニ殘サレタル軍隊ハ總督ポーノ下ニ置レタリキ乍然彼等ハ數ニ於テ敵
ニ多シ劣リテ在リシ○マシシレランハ突然ニ是軍隊ノ扶助ニ歸レト命令サレシ乍然彼ガ到着
セシ前暴キ戰争ノ引キ續ガ戰ハレタリシ○ポーパカ華盛頓ヲ助ケシ乍然其ハ二萬人ト而ノ聯
邦ノ役人ノ最モ猛烈ナル或ル者ノ價デアリシ

(5) 總督レーハ俄ニソリーランドマデポトマツシヲ渡リ追ツタ而ノフレデリツク及ハシアース
タウンヲ占領セシ○彼ハソリーランドノ人民ガ歡喜ヲ以テ彼ヲ迎遇スルデアロウ而ノ彼ノ軍
隊ノ陣列ヲ增加スルデアロウヲ考ヘシ○彼ハ速ニ彼ガ誤リテ在リシト見出セシ○マシシレ
ランハ彼ノ路ニ於テ在リテ而ノ九月十四日ニ於テ彼ハサウス山ニ於ル聯邦軍ニ戰争ヲ與ルベ
ク迫リシ○盡力シテ得タル勝利ガ聯邦軍ニ依テ得ラレシ而ノ敵ハアンテタム、シリオンノ後
ニ退去セシ

(6) 同盟軍ノ總督ノ最モ適當ナルストンウオル、ヂヤクソンハサウス山ノ戰ノ以前ハトパーノ
渡船場ニ向ヒテ派遣セラレタリシ○其及ヒ一萬一千五百人余ノ衛戍兵ヲ取ツタ所デ彼ハ千八
百六十二年九月十七日ニアンテタムノ大戰争ニ向ヒテノ時ニ於テリーニ再ビ結合シアンテタ

フレダ
リクス
一ガニ於
テパンサ
イトノ舉
動ノ話ヲ
舉ゲヨ

ムニ於テ各分ノ損失ガ嚴シク在リシ乍然勝チハ聯邦軍ヲ以テアリシ○リーハ彼ノメリーラン
トノ戰場ニ於テ三萬人カラ多カラズヲ失ヒシ所デポトマツクヲ橫ギリテ困苦セラレズニ彼ノ
軍勢ヲ引キ退キシ

(7) マシシレランハ今總督バーンサイドニ依テ交替セラレシ○彼ハ百八十五紙葉ノ地圖ニ於ル
ラパハンノツク河ニ於テ汝ガ見出スデアロウ所ノフレデリツクバードノ道路ニ依テリツクモ
ンドニ迄先進ヲ試ルベシ決定セシ○彼ノ軍隊ガ河ノ一方ニ於テ集リシ時ニリーノ軍勢ガ他ノ
邊ニ於テ現ハレシ○バーンサイドガ河ヲ渡ルベシ舟梁ヲ得ベシ適當デアリシ前ニ敵ハ都府ノ
後ロノ高處ニ於テ強ク彼等自身ヲ固メタリシ○最モ多シ英傑ノ盡力デ是等ノ高キ處ヲ去ラシ
ムベシ聯邦ノ軍勢ニ依テ勵マサレタ乍然成就ナシニ而ノバーンサイドハ一萬二千人ノ損失
ヲ以テ彼ヲ再ビ渡ルベシ追ラレタ箇様ニシテ千八百六十二年ノ末頃ニ於テポトマツクノ軍隊
ハ會テノ通りリツクモンドカラ其レダケ遠クアリシ

第六十一章

千八百六十二年ノ舉動ノ續キ及ヒ
千八百六十三年ノ舉動 (原書百九十三頁)

(1) 西方ノ舉動○一千八百六十二年ヨリ遲キ部分ニ於テ總督カービー、スミス而ノプラツグノ
下タノ二箇ノ同盟軍ガテツツシ及ビケンタツキーヲ亡セシリツクモンド及ケンタツキー
ノマンフオルツビルニ於テ勝ヲ得ルコト以後彼等ハ國ノ首府ナルフランソフオートニ於テ結ビ

及ケン
於テ聯邦
軍ニ於テ
人舉動ヲ
話セ

殆ト此時
ニ如何ナ
ル勝利ガ
大將モス
克蘭ス
ニ依テ得
ラレシカ

何ガ戰爭
ノ日毎ニ
失亡サレ
シヤ

シシシシナチー總督ワルレーズノ勢力ニ由テノミ扶助セラレシ○聯邦軍隊ヲ以テテノツツ
 シーカラブラツクニ次ギタリシ所ノビユールガロイスビルヲ占領シ而ノ斯様ニシテ劫掠ヨリ
 其ヲ助ケシ○地方ヲ掠奪シ而ノ彼ガ能ヒシ所ノ總テテ彼ノ隊伍ニ強ユルノ已後デラツクハ
 奪掠品ヲ以テ積載スベシ大ナル軍列ヲ以テ東テノツツシニ退去セシ
 (2) 其時グラント及彼ノ命令ガ怠惰デアラナシキ九月ニ於テ總督ロツスヲシテスガミスシ
 ツビーノイユカニ於テ同盟軍ヲ打敗リシ○而ノ翌月コリンズニ於テ大ナル損失ヲ以テ彼等
 ナ下ゲシロツスヲシテ今ブルニ交替スベシ命セラレシ而ノ十二月ノ三十一日ニ於テ彼ハ
 テンテツシーノマーフレツスボロニ於テブラツクニ戰テ與ヘシ○恐ロシキ三日間ノ勝利ガ疑
 ハシクアリシ乍然終ニ聯邦軍ハ一月三日ノ夜ニ於テ退テ同盟軍ニマデ其ガ衛ラレシ
 (3) 課税ノ制度○一日ニ百二十五萬弗ガ戰ノ爲メニ要セラレシは大ナル金額ヲ募集スル爲ニ會
 議ガ種々ノ輸入品ニ稅ヲ增加セシ歲入及製造品ニ於テ稅課セシ而ノ證書契約書賣入等ニ於
 テ印紙ヲ置カレベシ要セシ○彼等ガ又大ナル多寡ニ官札及ビ國札或ハ「グリーンバツクス」ノ
 發行ヲ認可セシ銀行ガ已前ニ或時貨幣ノ支出ヲ止メシ委シク言ヘバ金及銀ヲ拂ヒ出スヲ止
 メタリシ○夫故ニ金貨ハ利子ヲ命ゼシ軍中ノ或時ニ於テ金貨ニ於テノ百弗ハ紙幣ニ於テ二百
 九十八弗ヲ價シテアリシ
 (4) 一千八百六十三年一月第一日が大統領リンコルンノ布告ニ由テ記念スベキヲニ爲サレシ○

千八百六
十三年一
月一日ニ
大統領ニ
依テ爲セ
シヤ記
スベキ如
何ナルヤ

フリーカー
ノ進軍セ
ル舉動ハ
如何

フリーカー
ヲ放逐セ
ル後ニリ
ノ第二
ノ舉動ハ
如何

會議ニ依テ彼ニ與ヘラレタル權力ニ依テ彼ハ聯邦ノ政府ニ依テ保タレタ如ク斯様ナル部分ニ
 於テノ外ハ然時騒亂ニ於テノ總テノ國ニ於テ禁停シテ奴隸ノ勤ヲ布告セシ
 此時大統領リンコルン氏ニ依テ布告サレテ永ク世上ニ記念スベキ訓令ハ何ゾト云フニ奴隸則チ人ナトモセズシテ
 牛馬ノ様ニ使役サル、人ヲバ廢メ禁ツテ普通ノ人ノ様ニ取扱フ事ニシタ此ガ聯邦中ハ騒亂ト平和ノ國トナ間ハヌ一般
 ニ布告シタ

(5) フリーカーノ陣所○一千八百六十三年ニ於テ早ク總督フリーカーガ尙フレデリックスバルグニ
 反對シテアリシ處ノポトマツクノ軍隊ノ命令ニ於テ置カレシ、四月ニ於テフリーカーハ攻撃ヲ冒
 セシ而シテバハレノツクヲ渡リテ五月ノ二日及三日ニ於テチヤンセロアースビル(百八十五紙葉ノ圖面ヲ見ヨ)
 ニ於テ敵ニ戰テ與エシ○戰爭ガ聯邦軍ニ不幸ニ有リシ其ハ一萬人ノ亡ヲ以テラバハンノツク
 ナ再ビ渡ルベシ迫ラレシ○是戰爭ニ於テストンウオル、ジャクソント云ヘル同盟軍將ガ命ニ
 カ、ルベキ傷ヲ被ツタ
 (6) リーノ第二ノ攻撃○フリーカーヲ追ヒ退ルノ後リーハ再ビメリーランドヲ攻撃セシ○其處
 ナ横過リテ彼ハ南ペンシルヴァニアニ進ミ而シテヤムハースバーグ及ヨークヲ取リシペンシ
 ルヴァニア人ハ彼等ノ出生ノ地ヲ禦グベク起リシ而シテ今フリーカーノ塲處ヲ取テ處ノ總督ミ
 ドハ攻撃者ニ密ニ次キシリハゲツテイヌバークニ於テ戰テ與ウルノ其ヲ必要ト見出セシ
 汝ハ百八十五紙葉ニ於テ地圖ニ於テ是塲處ヲ見出ステアラウ○戰ガ三日間續キ七月一日ヨリ

ミシシッ
ビーニ於
テ總督グ
ラントノ
擧動ハ如
何

ヴイツク
スバーク
ノ國政ノ
結果トナ
舉示セヨ
其後四日
間ニ何處
ガ服從サ
レシヤ

如何ナル
計略ガ一
千八百六
十三年ノ
間ニ於テ
ナサレシ
ヤ

三日迄而ノ聯邦ノ軍器ニ迄充分ナル勝利ニ於テ終結セシリーハラバハンノツクヲ越ヘテ退キ
シ而ノ聯邦ノ軍隊ガ再ビ其河ニ於テ位置ヲ取ツタ

(7) グラントノミシシッビーノ陳所○成功ナキ攻撃ガ同盟軍ニ依テ保タル、ヴイツクスバーク
ノ強ク固メラレタル都府ニ於テ一千八百六十二年ノ終ニ於テ爲サレシ○後暫時ニ攻撃ガ強キ
陸海軍ヲ以テ總督グラントニ依テ新ニナサレシ○一千八百六十三年ノ五月ニ於テグラントハ
ミシシッビーニ於テ勝利ノ繼續ヲ得シ而ノ彼ガ今圖ニ依テ從ヘルベク決セシ處ノヴイツクスバ
ーニ於テケル彼等ノ哨堡ニ同盟軍ヲ遣ヒシ

(8) ヴイツクスバークニ於テ同盟軍ノ總督ハ助勢ノ望ニ於テ出ベキタケ久シク堪ヘシ○乍然一
ノ救援ガ來ラザリシ糧食ガ乏シクナリシ而ノ七月二日ニ於テ彼ハ三萬人餘ノ彼ノ全キ守兵ト
與ニ降參スベク迫ラレシ

(9) ヨリ遅キ四日ニルイシアナ(地圖ヲ見ヨ)ニ於テノ強キ同盟軍ノ陣營ナルポート、ハドソンガ總督
ハンクスニ降參シミシシッビーガ斯様ニテ終ニ開放サレシ而ノ此等ノ勝利ガペンシルヴァニア
ニ於テリーノ敗北ニ於テ密ニ次ガ處デ喜ビヲ以テ北方ニ充タセシ

第六十二章 一千八百六十三年ノ運動(續キ) (原書百九十五頁)

(1) 徵兵抽籤○一千八百六十三年ノ夏ニ於テ軍隊ニ向テ要用ナル人ヲ保持スル爲メニ大統領
リンコロンハ會議ノ權力ニ依テ徵兵抽籤ヲ命令セシ委シシ言ハ彼等自身軍ニ往クベキカ或ル

代人ヲ備ヘルベキカヲ餘儀ナクサレシバナラヌ都市人ノ全體カラ抽籤ニ由テ或ル人數ガ引カ
ン子ハナラヌヲ命令セシ○此ガ種々ノ部分ニ於テ騷動ニ迄發端ヲ與ヘシ

(2) 徵兵抽籤ガ七月十三日ニ新約克ニテ始リシキニ暴徒ガ聚合シ其ニ於テ鬧ガ引カレテアリシ
處ノ家屋ニ襲テ多ノ家ヲ焚キシ而ノ亂暴ヲ行シリヲ追ヒ返スヲニ於テ助ル爲メ大統領ノ召
喚ニ於テ國民兵ガペンシルヴァニアニ往タ處テ三日間彼等ハ都府ノ管轄ヲ持シ其時ノ終ニ於
テ充分ナル軍兵ガ狂暴人ヲ鎮定シ而ノ秩序ヲ恢復スル爲メ集メラレシ

(3) モーガンノ攻襲○是全年ノ六月ニ於テモーガント云ヘル徒黨ノ首領ガ二千五百ノ同盟軍ヲ
以テ南部オハイオヲ通シテ攻襲ヲ爲セシ彼等ハ彼等ノ路ニ於テ有リシ處ノ總テヲ奪掠シ而ノ
暴スルヲ後オハイオ河ヲ再ビ渡リ而シタリランドニ於テノリーニ結合スベク陳供セシ○
彼等ノ企ハオハイオノ勇壯ナル人ニ依テ而シケンタクキカラ攻襲人ニ次キタリシ處ノ聯邦
ノ軍隊ニ依テ擊破ラレシモーガンハ七月二十六日ニ破ラレシ而ノ虜ニサレシ

(4) 活潑ナル舉動ガ大西洋ノ海岸ニ於テ兩方ノ組合ニ依テ爲サレシ○同盟軍ハニウバーレヲ再
ヒ取ルベシ試ミシ乍然追ヒ反サレシ聯邦ノ甲鐵艦へ船隊及總督キルモアノ下ノ強キ陸軍ガ
チヤールレストンノ港ニ派遣サレシ、敵ノ夥多ノ砲臺ガ取ラレシ而シヒター城ハ其堡ガ碎ケ
シマテ劇シク砲撃サレシ、破壊スル發彈ガ又其住民ノ最モ多ニ依テ見弄ラレシ處ノチヤール
ストンノ府ニテ聯邦ノ砲臺ニ依テ放サレタ

如何ナル
舉動ガ
チヤール
レストン
トレニ抵
抗シテ
邦ノ軍ニ
由テナサ
レシヤ

アラツカ此項ノ如何ナルヲ爲セシヤ

(5) 六月ニ於テロースクランズノ其軍隊ガスルフリースポロニ向テ戦ヲ再ヒ取りシ而ノ最初ニ
 テンチツシノ東南ノ部分ニ於ケルチヤータノ一ガ而ノ然後ニ西北ヨリシヤニ退去スベク
 彼ニ追リシ是處ニブラツグハ彼ニ援救サレタ處デ汝ガ二百四紙葉ノ地圖ニ於テ見出スデアロ
 フ處ノチツクカヌウガシリニ近ク俄ニ聯邦軍ヲ攻撃セシトーマスノ分隊ノ取り除キヲ以
 テ聯邦軍ニ混雜ニ於テ追ヒ返サレシ而シテハリスランズ及チヤッタノ一ガニ於テ彼ノ軍隊ヲ
 集合セシメテ其ハ重キ損失ナシ方デアラザリシ
 (6) ルツクアウト山○ブラツグハ一時ニロースクランズノ通信線ヲ斷チシ而ノ暫時聯邦軍ハ嚴
 シキ難儀ニ於テ有リシ○然レモ總督フーカーハポトマツクノ軍隊カラ援兵ヲ以テ糧食ガ運送
 サレ能エタ事程左様ニテンチツシノ河ヲ開クニ於テ成就セシ速ニロースクランズヲ罷メタ
 リシ處ノ總督グラントハチヤッタノ一ニ來リシ大分隊長ガブラツグノ軍隊ヲ見弄テターチ見
 出シテ彼ハ戦ヲ取りシ二ノ光アル勝利ヲ得シ而シテチヤッタノ一ノ敵ヲ逐ヒ退ケシ
 ○此等ノ勝チノ最初ノ者ハ彼等ガ下ニ觀者ヨリハ雲ニ依テ隠サレシ事程斯様ニ高ニ於ケル
 ルツクアウト山ノ上ノフーカーノ人ニ依テ得ラレタ
 此勝利ノ第一着ハ雲ノ上ニ登ルカト疑ハル程ノ高キルツク山ノ頂上ヨリ敵ヲ射下シタモノダカラ皆盡ク敗北チナ
 シタ

(7) 總督ロングストリートノ下ニブラツグニ分離セシ處ノ分隊ガチヤッタノ一ガノ東北凡ソ百

アラツカチ去リシ時何處ニロンクストニ一分隊ハ行キシカ

ミソリー及アカンサスノ事ハ如何ノ有様ハ如何

千八百二十四年ニ於テ早ク總督ランクハ依テ如何ナルヲ爲サレシヤ

里ノノツクスイルノ方ニ急キシバーンサイドハ彼ガ東北テシツシノカラ敵ヲ逐ヒ退ケル
 ニ於テ用ヒタリシ處ノ軍隊ヲ以テ是處ニ有リシ○同盟軍ハ聯邦軍ノ之ニ烈シキ攻撃ヲナセシ
 乍然追ヒ返サレシ而シテ然時ニ都ニ圍ヲ置キシ其ハ暫時強キ苦デ有リシ乍然終ニブラツクノ敗
 衄ノ後チヤッタノ一ガカラ大軍ヲ以テ進行ク處ノ總督シヤコンニ由テ助ケラレシ

(8) ミソリー及アカンサスハ是年ノ最モ多ク通シテ軍及強迫ノ場處デアリシ○争鬪スル處ノ
 軍隊ガ兩國チ寄セシ而シテ煽動民及強奪者ハ各ノ種類ノ暴虐ヲ行テ彼等ノ跡ヲ次ギシ○節ニ又
 聯邦軍ノ軍器ガ成就シテ有リシ而シテ年ノ終ニ由テ兩國ノ半ガ聯邦軍ニ恢復サレシ

第六十三章 一千八百六十四年ノ運動 (原書百九十八頁)

(1) 紅河ノ遠征○一千八百六十四年ニ於テ早ク水師提督ポーターノ下ニ勇豪ノ船隊ニ由テ支ヘ
 ラレタル大軍ヲ以テ總督ハンクスハ紅河ヲ開キ而シテ西ルイシヤナヨリ同盟軍ヲ遣フ爲メニ
 ウオルレアンスヨリ出立セシ軍隊ガ恐ロシキ砲艦ニ由テ守護サレシ間ハ其ガ一ノ困苦ニ遇ハ
 ザリシ而シテ種々ノ要用ナル場所ヲ取ルニ於テ成就セシ○乍然聯邦軍ガ河ヲ見弄シ後速ニ中
 軍ヨリ或ル里程隔リテ有リシ處ノ彼等ノ進軍ガ前面ニ於テ及ビ兩翼ニ於テ敵ニ由テ(四月八
 日)劇シク攻撃サレシ而シテ大ナル亡失ヲ以テ破ラレシ(河ヲ渡リテ直ニ進軍チナシタ時ニ敵ハ兩翼ノ
 陣ヲ張リテ左右ヨリ攻撃シタモノ故大ニ破ラレタ)
 (2) 翌日攻撃ガ中軍ニ於テ恢復サレシ乍然總督スミツスノ分隊ガ疲勞セル軍隊ヲ助ケシ而シテ河
 ニ達スベク其チ適當ニセシ○遠征ガ見弄ラレシ艦隊ガ還リシ而シテ其還ニ於テ敵ノ砲臺ニ由テ

アルベマ
ルノ甲
鉄艦ハ如
何ニ爲リ
シカサ間

チヤツダ
ノ一カ
軍ヲ以テ
如何ナル
事ヲ起リ
シヤ

アトラン
ヲ取ル
トニ由テ
終ニ如何
ナル事ガ
成功ナセ
シヤ

大ニ困難ヲ以テアリシ○其ガ河チ上リシ後水ガ減シタリシ而シテ砲艦ガ急流チ越ヘテ達セラレシ
シノ其ハ大ナル困難ヲ以テ而シテ堤ノ造作ニ依テノミテ有リシ

(3) 夥多ノ他ノ利益○年ニ於テ早ク別レテテソチツシニ於テ同盟軍ニ依テ得ラレシ○此等ノ中ニメムヒスノ上七十英里ミシツヒニ於テフオート、ヒルローウノ掠奪ガアリシ○此キヤロリナノプリスウスガ又甲鐵艦アルベマールニ依テ救援サレタル同盟軍ニ依テ取ラレシアルベスールハ其後彼女ノ下ニ水雷火ヲ爆發セシ處ノ「リウテナント」カツシングニ由テ沈メラレシ

(4) 一千八百六十四年三月三日ニ於テ總督グラントハ合衆國ノ軍隊ニ於テ最モ高キ位置ニ高マリシ○其ハ副都督ニ付テ○ジョーシヤ、マトランタニ於テ進行スベキ指揮ヲ以テ總督シセー
トニニマデチヤツタノ一ガニ於テ及ヒ周圍ニ有ツタ處ノ大軍ヲ向ケテ彼ハ同盟軍ノ首府ニ於テ進軍スベクポトマツクノ軍隊ニ急ギシ

(5) アトマンタノ滅亡○シマースンハ速ニ戰場ニ於テアリシ○今ハ敵ノ翼ヲ圍ミテ而シテ今ハ強キ打ニ由テ彼等ノ位置カラ彼等ヲ退出シテ練熟ノ運動ノ引續ニ由テ彼ハ終ニアトランタノ前ノ彼等ノ砲臺ニ彼等ヲ逐ヒ而シテ都府ニ圍ヲ置イタ○三ノ恐ルベキ攻撃ガ圍ム處ノ軍隊ノ上ニ爲サレシ乍然成功ナシニシヤーマンハ終ニ敵ノ音信ヲ斷チ切ルニ於テ而シテ本隊カラ大分隊ヲ力ムルニ於テ成就シタ處テ同盟軍ハ都府ヲ撤去セシ而シテ九月二日ニ於テ聯邦軍ハ勝利ニ

此時ノ舉
動ヲ語レ

企テノ二
ノ不結果
ナルヲガ
何處ニ於
テ爲サレ
シヤ

セナレド
ウノ谷ハ
誰ガ擔當
セシカ

於テ其ニ進行セシ

(6) グラントハリツチモンドへ進行ス○ポトマツクノ軍隊ヲ以テグラントハチヤンセロアーズ
グイル(百八十五紙葉ノ地圖ヲ見ヨ)ノ西ナル荒地ノ路ニ依テハリツチモンドニ進ミタリハ五月五日、六日、七日

ニ戰チ彼ニ與ヘシ乍然退クベク脅迫サレシ○兩方ニ於テ恐ロシキ損亡ヲ以テ終ニリーガリツチモンド迄送ラレシ迄困難ノ戰ガ連日續ケラレシグラントハ然時ニポトマツクノ南方ニ彼ノ軍隊ヲ退ケシ而シテベターズバグヲ取ルベク試ミシ○彼ハリニ由テ其防禦ニ任セラレタル強キ軍隊ニ依テ左様ニ爲ヌヨリカ妨ゲラレシ

(7) リツチモンドニ於テ攻撃ヲ以テノ結合ニ於テハ二ノ企ハ兩ナガラ不成功ガヴァーシニヤノ
レインバグニ於テ聯邦軍ニ依テ爲サレシ○此等ノ後者ノ者カラ退去スルニ於テハンター
ハ防禦ナシセナンド河ノ谷地ヲ殘セリ而シテ總督アーリーハ二萬人ヲ以テ三度シリランダチ
襲フベキ好機ヲ取ツタ○彼ガ往キシ時ニ奪掠シテ彼ハバルチモニアノ二三里内ニ近キシ○而
シテ加之彼ノ軍隊ノ一分隊ハ華盛頓ノ外部ニ侵入セシ○彼等ハ速ニ追返サレタ而シテ全隊ガ後速
ニ彼等ノ奪掠物ヲ以テポトマツクチ渡リシ

(8) 尾撃ニ於テ出發シタル聯邦ノ散隊ハ初ニ或ル勝利ヲ得シ乍然終ニ追返サレシ再ビ(七月廿
九日)アーリーハポトマツクチ渡リシ彼ノ軍隊ノ部分ヲ撤去セシ總督シエリダンガ其防禦ヲ
以テ任セラレシ迄ハセナンドウノ谷ハ聯邦ニ負擔サレサリシ

(9) 一千八百六十四年十月十九日ニ於テノ日ノ前ニセナンドウノ聯邦軍ガシーダーノ入海ニ於テ敵ニ依テ俄ニ攻撃サレシ亂軍ト而シテ敗軍ト投ケラレシシエルダンハウインヤニスタカニカラ二十英里ノ彼ノ有名ノ騎行ヲ爲セシ而シテ彼ノ現レニ依テ多ノ銃砲及腐チ取リテ著シキ勝利ニ遂敗北ヲ變ゼシ一ノ其ハ然時テアリシシエルダント總テ彼ノ交戦ニ於テ打タレテアーリーハ終ニ彼ノ敵ノ各地ヲ去リシ

第六十四章 一千八百六十四年ノ運動ノ續キ (原書二百一頁)

(1) アラハマノ沈没○一千八百六十四年ノ夏ガ亞米利加ノ南船ヲ奪掠シ而シテ焚キテ海ヲ漂泊シテ有ツタル處ノ甲比丹セメスニ依テ命令サレタル英吉利ニ於テ造リタル同盟軍ノ私船アラハマノ破船ニ依テ援ンデラレシ○彼女ハ佛蘭西ノ海濱ヲ離レテ暫時ノ争ノ後ケーアサージニ依テ沈メラレシフロリダ及シヤーシヤト云フ二ノ他ノ私船ハ聯邦ノ船ニ依テ年ノ間ニ奪レタ
(2) ペーターマスバーグノ圍○其時グラント及彼ノ軍隊ハペーターマスバーグノ前ニ勦キテ困難デ有リシ○鑛山ノ爆發ニ依テ敵ノ防禦ニ於テ間隙ガ爲サレシ乍然聯邦ノ軍隊ハ孔穴ヲ通テ入込ベク企シ時ニ彼等ハ五千ノ兵ヲ以テ追返サレシ敵ニ與ヘシ處ノ鐵道ヲ斷ツ爲メニ遠征ガ派遣サレシ而シテ同盟軍ノ隊伍ガゼームス河ノ兩傍ニ於ケル種々ノ場處ニ於テ攻撃サレシ乍然甚ダ大ナリ利益ガ得ラレザリシ
(3) 八月ニ於テ水師提督アララガウトハモビル灣ニ於テ彼ノ戰功ニ依テ彼自身拔ンデシ○是灣

ハ多ノ砲艦及テンチツシート云ヘル甲鐵艦ノ如ク三ノ同盟軍ノ艦ニ依テ防ガレシ(昔ノ艦年ナ様ヲ以テ防禦)○アララガウトハ其過去リシ而シテ同盟軍ノ艦隊ヲ奪ヒ又ハ不適當ナル一ノ砲艦ノミガ逃レテ○陸軍ニ由テ助ケラレテ彼ハ然時ニ其艦ニ向ヒシ○此等ノ一ハ其守兵ニ由テ爆發サレシ而シテ他ノ二ハ彼ノ恐ロシキ砲撃ニ從フベシ強迫サレシ○斯様ニシテモビルニ迄ノ路ガ開カレシ

(4) リンコルンノ再撰○千八百六十四年ノ終ニ於テリンコルン氏ガ彼ニ向テ進ミシ處ノ總督マツシレランヲ越ヘテ大統領ニ再撰サレシ同時ニテンチツシーノアンドリウシヨソンガ副大統領ニ撰ハレシ

(5) シアーコンノ海ニ迄ノ進軍○アトランタヲ取ルコトノ後シアーランハ二ヶ月間休戦スベク彼ノ軍隊ニ許セシ而シテ然時ニ戰ノ記憶スベキ運動ノ一ヲ始メシ○アトニシタカヲ追ハレタ處ノ同盟軍カラテンチツシーヲ防護スルタメニ總督トーマスノ下ニ嚴トシテ充分ノ人手ヲ殘シ留メテ彼ハ内部ニ於テ彼ノ隊ヲ去リ而シテ二十英里カラ六十英里ノ廣キ地方ヲ打拂テ鐵道ヲ毀チ地方ニ於テ生活シテ而シテ住民ノ内部ニ恐レチ打チテ海濱ニ向テ進ミシ

一ヶ月間ハ休戦スルト云フコト命令シテ軍士ノ英氣ヲ衰ツタ後テ總督ハ多クノ人ヲ本陣ニ留メテ急ニ内地ニ進撃シナシタモノ故突然ノ事ニ皆驚キ寄レテ居テ防ケ者ガナキ故ニ其海濱マテ進撃ヲナシタ

敵カ僅カノ抵抗ヲナシ能ヒシ○一ヶ月内ニ海濱ガ達セラレシサヴァンサニ近キフオートマシ

ホードガ
テン子ツ
シイシ侵
撃セシ時
ノ景況ヲ
問フ

此時如何
ナル結果
ガ始マリ
シヤ

アリターガ取ラレシ聯邦軍ノ通信ガ開カレシ○同盟軍ハサヴァンナチ退軍スベク追ラレシ其
ハ十月二十一日ニ於テ聯邦軍ニ依テ占領サレシ

(6) シアーコンガアトランタカラ進ミシヤ否ヤ同盟軍ノ都督ソードハテンチツシチ攻撃セシ
ム聯邦ノ軍隊ハ終ニ彼等ガナスビルニ間近ク抵抗チナセシ迄場處カラ場所ニ追ヒ返エサレシ、
フールドガ河チ閉ツベシ而シテ鐵道チ斷切ルベク用意シテ有リシ時ニ總督トーマスガ彼チ攻撃セ
シ(十二月十五日)大ナル混雜ニ於テ彼ノ位置カラ彼チ追ヒシ而シテ多ノ大砲及一萬二千余ノ虜
チ奪ヒシフートハ然時ニ北部アラハマデ彼ノ軍隊ノ殘兵チ回セシ

(7) ウイルミントン○北キヤロリナノ海濱ニ於テノウクルシントンハ軍師チ通行シテ封港船ノ
大集合處デ有ツタリシ○其ハフオート、フイツシヤー及ガスウエルニ依テ防ガレシ○千八百
六十四年十二月ニ於テ水師提督ポーター及總督ハットラーガ此等ノ砦チ降服サスベク而シテ首
都チ取ル爲ニ出發セシ○聯邦ノ艦隊ガ速ニフオート、フイツシヤーノ銃砲チ壓セシ乍然ハッ
トターハ攻撃ニ依テ取ラルベク餘リ強ク砦チ思フテ企チ放擲シタ○其後或日ニ企ガ充分ナル
成功チ以テ總督タリーニ依テ漸ニサレタ○砦ガ取ラレシ而シテ千八百六十五年二月二十二日ニ
於テ聯邦ノ旗標ガウイルミントンノ上ニ懸リ搖イタ

(8) 千八百六十四年ノ終ニ向テ誠實ナル國ノ人民及所有物チ損害スルコトニ向テ種々ノ企ガキヤ
ナダニ於ル同盟ニ依テ始ラレシ○一ノ組ハヴァーモンドノ北部ニ於ルセントオルバンズニ

シヤ一マ
レノ軍隊
ハ次ニ如
何ナル事
動チ爲セ
シヤ

チヤ一レ
ストンノ
聯邦軍ノ
指令官ハ
如何ナル
ヲ爲セ
シヤ

此時ニ於
テシヤ一
マンニ依
テ如何ナ
シヤ

於テ奪掠チ爲セシ銀行チ強奪シ而シテ國境チ横過テ逃レシ他ノ組ハイリー湖ニ於テ二艘ノ蒸氣
船チ奪ヒ而シテ焚キシ○第三ノ組ハ大ナル旅宿夥多ニ放火スルコトニ由テ新紐育ノ首府チ焚クベ
ク企テシ然レモ多ノ損害ガナサレル前ニ火ガ消サレシ

第六十五章

軍ノ終結ノ運動

(原書二百四頁)

(1) キヤロリナチ過テシアーマンノ進軍○サヴァンナニ於テ暫時休息ノ後シヤースンノ軍隊ガ
再ビ戰場ニ於テ有リシ○彼等ハ千八百六十五年ノ二月十七日ニ於テ國ノ首府ナルヨロシビヤ
チ取リテ南部キヤロリナチ横過リテ進ミシ○其處ヨリ彼等ハ北部キヤロリナニ進ミシ○彼等
ノ進軍ニ抵抗スベク會シタ處ノ敵ノ二ノ戰爭ノ後彼等ハゴールツボローニ入りシ而シテ其後速
ニ國ノ首府ナルレリーチ占領シ同盟軍ハ北西ニ退軍スル處デ

(2) 彼ノ後陣ニ於テシアーマンノ運動及ギルリモアノ砲臺ノ近キ近接ガ彼ノ位置ハ最早安穩
デ有ラザリシコトチヤ一レストンニ於ル同盟軍ノ總督ニ警告セシ○夫故ニ綿チ保ツ處ノ倉ニ
放火シタ處デ彼ハ首府及港ニ於テ砦チ去ツタ其ハ二月十八日ニ於テ聯邦ノ軍隊ニ由テ占領
サレシ○首府ノ砲撃ガ五百四十二日焚キタリシ

(3) 彼ノ軍隊ノ部分チ以テ總督シアーソンハ是時ニ於テセナンドウノ谷ノ上部ニ光リ輝ケル舉
動チナセシ○彼ノ路ニ於テ同盟軍ノ一隊チ敗リテ彼ハ速ニリツチモンドノ方向ニ於テ進ミシ
而シテ其ニ依テ其ハ其ノ供給ノ最モ多チ受取リシ處ノ鐵道及掘割チ毀チシ然時ニゼームス河チ

レ舉動ガ
爲サレシ
三月二十
五日聯邦
軍ニ依テ
企ガ何ニ
ナサレシ
四月二日
聯邦軍ニ
依テ如何
ナル舉動
ガ爲サレ
シヤ

リノ軍
ガ如何ナ
ル地ニ達
スベク試
ミシヤ

大統領ノ
説話ヲ聞
フ

渡リテ彼ハペタースバーンノ前ノ軍隊ニ結合セシ

(4) 同盟ノ指揮者ハ強壓スル處ノ軍隊ガ彼等ニ向テ持來クサレテ有リシヲ見テ三月二十五日ニ於テグラントノ隊ヲ破リ而シテ部分ヲ分離スベシ亂暴ナル企テナセシ彼等ハ初ハ稍々成

テ有リシ乍然終ニ退ケラレシ○當番ニ總督グラントハ勇壯ニ敵ニ迫リ而シテ彼ノ隊ヲ進メシ

(5) 戰爭ノ終結○四月ノ二日ニ於テペタースバーンノ前面ニ於テ全キ軍隊ニ沿フテ聯邦ノ軍隊ニ依テ攻撃ガナサレシ而シテ同盟軍ハ彼等ノ哨堡カラ退ハレシペタースバーン及リツキモンド

ガ最早保チ能ハザリシ而シテ其全夜ニ彼等ハ同盟軍ニ於テ除去サレシ○今戰ガ速ニ終ラテハナ

ラヌコノ其ガ感ゼラレタ

(6) リーノ軍隊ハ他ノ抵抗ヲ爲スベシ其ガ企テラレシ處ノレーンツナバードノ方ニ退軍セシ乍然

シアードンハ遁走者ヲ拒絕セシ充分ニ彼等ヲ破リシ而シテ數千人ノ虜ヲ取リシリーハ今降服ス

ベシ追テラレシ而シテ千八百六十五年四月九日ニ於テ彼ノ總軍ガ降服セシ○是喜ハシキ報告ガモ

ビルノ降服ノ新報及總督マートンマン及ウイイルソノ下ノ聯邦ノ軍隊ノ大分隊ニ依テ北キヤロ

リナアラバマ及シチャーシヤニ於テ得テラレタル緊要ノ成功ニ依テ次ガレシ

(7) 大統領リンコロンノ暗殺○此等ノ喜ハシキ通信ノ最中ニ大統領リンコロンガ暗殺サレタコ

ノ驚ク可キ新報ガ來ツタ彼ハ南方ノ過劇黨タリシジョウウイルクスブーニ依テ華盛頓ニ

於テ劇場ニ於テ四月十四日ノ夕ニ於テ發彈サレ而シテ翌朝死セシ○是恐ルベキ事件ガ報告サレ

シ時ノ通り國ヲ經過シテ左様ニ劇シク而シテ一般ニ看ラレタル悲哀ガ決シテ有ラザリシ

戰爭ノ結果ノ報告ヲ聞イテ人民ハ皆大ニ喜ビ居タ其際中ニ又驚クベキ事件ガ起ツタ其ハ何ゾト云フニ大統領リー氏ノ

南部過激黨ノ爲メニ暗殺サレタガ此報告ヲ國ノ一般ハ驚ノ爲メニ悲ノ情ヲ忘レタ

大統領ガ殺サレシ處ノ同夜其時ニ於テ疾ニ依テ彼ノ寢床ニ閉込リタル國政官スワルド氏ノ生

命上ニ企ガ爲サレシ○假令彼ハストルド氏及現ハレテ有リシ處ノ三人ノ他ノ者ニ負傷セシト

雖ヒ刺客ハ彼ノ目的ヲ失ヒシ

此時過激黨ハ國政官スワルド氏ノ病床ニ臥シ居タノヲ襲ツタガ氏ハ刺客ノ毒ヲ免レタガ其傍ニ有リシ多クノ人ハ頁

傷チナシタ

(8) 奮發ナル盡力ガ暗殺者ヲ捕フル爲メニナサレシ或日ノ後ブーアス及同盟ガ小舎ニ遁跡サレシ

而シテ降服スベシ喚ビ出サレシ○終ノ者ハ左様ニ爲セシ乍然ブーアスハ承知セヌ處テ彼ノ遁跡人

ニ於テ狙撃スルコトノ所爲ニ於テノ間ニ射倒サレタ○同黨ガ訴告セシ而シテ三人ノ他ノ者ハ軍部

ノ法廷ニ於テ有罪ト見出サレ而シテ絞殺ニ處セラレタ○密謀者ト連合シタル三人ノ他ノ者ハ終

身禁獄ニ宣告サレシ而シテ一人ハ六年間ノ苦役ニ宣告サレタ

第六十六章

管政

(原書二百六頁)

(1) 大統領リンコロンノ暗殺ノ後ノ日ニテシヤシーアアンドリージョソンガ合衆國ノ大統領

領ノ盟書ヲ取リシ彼ハ種々ノ軍役ヲ經テ彼ノ國ノ知事及合衆國ノ議員デアアルベク身分ニ於テ

暗殺者ノ
捕縛サレ
シハ如何
シテナサ
レシヤ

誰ガ大統領
領ヲ繼
シヤ

降ノ後如何ナル結果ヲ生シヤ

戰爭ノ連綿ニ付キ政府ニテ如何ナル手段ヲ施シヤ

如何ニ此結果ガアリシヤ

低キ位置ヨリ昇ツタリシ○彼ハ軍ヲ通テ勇智ヲ止メシテ而シテ大統領リンコンノ下ニテシテ

シノ司令官トシテ勤務スルノ中ニ合衆國ノ副大統領ニ擢擧サレシ

(2) 降参ガ同盟軍ノ頭痛デアリシ(頭痛トハ常ニ強ク苦痛ヲナシタ)○北キヤロリナニ於テシアーコンニ抵抗

シタリシ處ノ凡ソ三萬人ノシヨソソノ軍隊ガ四月二十六日ニ降服セシテ而シテ翌日ニ殘ル處ノ

同盟ノ軍隊ガ彼等ノ例(降参ノ)ニ次ギシ軍ガ今終結ニ於テ有リシ○シエフアーンソン、ダビスガ

海濱マテ逃ルベシ試ミシ乍然ウイルソンノ騎兵ニ依テシチーシヤニ於テ妨ゲラレシ○彼ハ暫

時叛逆ニ向テ告訴ノ下ニ一時ニ向テ禁獄サレタ○乍然遂ニ保釋ニ於テ許サレタ役ノ吟味ハ

延引サレシ而シテ終ニ盡ク廢ラレシ

(3) 軍ノ終結ニ於テ政府ハ南ノ港ヲ封鎖スルヲ解キテ海軍ヲ減シ而シテ軍隊ノ大ナル部分ヲ解

キシ○凡ソ二千七百五十億圓ノ負債ガ招ガリタ乍然彼等ハ平和ノ恢復ニ於テ爲セシ通り喜ビ

テ此ガ人民ヲ失望シナサリシ○千八百六十五年五月廿九日ニ於テ發布シタル大統領ノ布告

ニ依テ分離ノ舉動ニ於テ結合シタル處ノ夫等ノ最モ多ニ大赦ガ與ヘラレシ而シテ其處ニ新シキ

有様ニ從ラベシ南部ニ於テ一般ノ整頓ガアリシ

(4) 千八百六十五年ニ於テ奴隸ノ務ガ合衆國ニ於テ禁止サレシ○此人軍ノ終結ノ前ノ會議ニ依

テ建議サレ而シテ國ノ四分ノ三ニ依テ准許サレタ制度ニマテ改正ニ依テ遂ゲラレシ○種々ノ議

決書ガ其後自由ノ保護ニ向テ決定サレシ

此時始メテ前面ニリンコンガ發布シタ奴隸禁止ノ布告ヲ合衆國ノ三分ノ二ノ國內ニ一般ニ諸サレテ奴隸ノ自由ノ保

護ヲ與ヘラレヲ准許サレタ

(5) フェニアンストシテ知ラレタル社會ガ或時ノ間英王ノ權カヲ愛爾蘭ヲ奪領シ而シテ獨立ニ其

ヲスルノ目的ニ向テ形造ラレテ愛爾蘭合衆國及他處ニ於テ成立ツタ○千八百六十六年六月

ニ於テ合衆國ニ於テ居住スル處ノフェニアン人ガ國境ヲ過ギシ而シテキヤナダヲ襲ヒテ或ル

小戰ノ後ニ追ヒ返サレシ○假令英人ガ近頃ノ軍ニ於テ同盟軍ヲ助ケタリト雖大統領シヨソソ

ンハ直ニ國ノ中立ガ保タレテハナラヌノ布告ニ發セシ而シテ舉動ニ迄止メテ置キシ通り斯様

ナル方法ヲ取ツタ

(6) 千八百六十六年及千八百六十七年内ニ其處ニ再建ノ論議正シク云ハ合衆ニ於テ彼等ノ前

ノ位置ニ分別セル國ヲ恢復スルノ議論ニ於テ多ノ激動ト而シテ劇シキ感情ガアリシ○大統領

及論議ハ意見ニ於テ遠ク違イシ終ノ者ハ他ノ者ノ中ニ自由ノ權理ノヨリ遠キ保證ニ於テ主張

シテ別レタル國ノ最モ多カ千八百六十八年七月ニ於テ合衆ニ於テ彼等ノ已前ノ位置ニ恢復サ

レシコノ其ハ永キ争ノ後ノミテ有リシ

(7) 千八百六十七年ニ於テ北亞米利加ノ西北ノ部ニ於テ殆ンド六十萬平方英里ノ量ル可カラザ

ル領地魯西亞米利加ガ金貨ニ於テ七百二十萬圓ニ替ヘテ合衆國ニ依テ買ハレシ其ハ其ノ漁業

及ビ毛皮ニ向テ重ニ價アル寒ク而シテ粗鄙ナル地方デアアル

千八百六十七年及千八百六十八年ニ於テ大ナル激動ノ如何ナルモセシヤ

キヤナダノ景況ヲ問フ

如何ニホ
ストンノ
人民ハ罹
災ヲ爲セ
シヤ

大統領ノ
職ヲハ誰
ガナサレ
シヤ

モドツク
印度人ハ
何處ニ住
居セシヤ

西班牙ヲ
以テ困難
ノ物語ヲ
問フ

與セシ處ノ夥多ノ國民ノ判定者ニ委任サレシ

(5) 恐ロシキ類焼ガ千八百七十一年ノ秋ニ於テ亡滅ニ於テチカゴノ府ノ半分ヲ置キシ○其後凡
ソ一年ニポストンガ等シキ天罰ヨリ難澁セシ○地方ニ於テ建物ノ最モ美麗ナル木石ノ或者ガ
斯様ニシテ毀損サレシ乍然都民ノ奮發ガ速ニ再ビ彼等ノ灰ヨリ彼等ヲ建テシ
チカゴノ府ノ半分程ハ七ビタガ同シクポストンモ同シク天罰ヲ蒙ツテ結構壯麗トモ云フベキ家屋木石ノ類カ殘ラズ燒
ケ損ジテ今ハ殆ンド亡ビタ様ニナツタガ人民タチハ奮發シテ其焚ケタ灰ヲ去ツテ再ビ奇麗ナ家ヲ建築シタ

(6) 千八百七十二一年十一月ニ於テ總督グラントガ大統領ニ再撰サレタ而ノマサチヨセツツノ議
員ウイルソンガ副大統領ニ撰舉サレシ紐育トライブーンノ設建者デ而ノ記者トノ久シク振群
ナル自由共和黨ノホニスグリーレーガ民政黨ノ投票ニ於テ大統領グラントニ向テ進ミシ○
ライベイルレバツリカン
デモクラティッククワイツケット
ノロミキント

彼ハ唯數週間戰爭ノ激動ニ存命(數週間ニシテ)死スルヲ云フセシ

(7) シレデイトトモビリアー○是時ニ就テ大ナル誹語ガ「シレデイトトモビリアー」ニ由テ起
サレシ○此ハ合衆國ノ大平洋鐵道ヲ建立スルヲニ由テ大ナル利益ヲ爲シタリシ處ノ資本會社
デアリシ○其ハ資本ノ或者ガ會議ノ議員ノ手ノ内ニ失セタリシヲ現出シタ而ノ彼等ノ發言
ガ斯様ニシテ線路ニ關涉スル處ノ議問ニ於テ邪ナル感ガアツタヲ其ガ疑ハレシ○會議ガ事件
ヲ審查セシ而ノ種々ノ振ンデタル公事ニ迄損害デ有リシ處ノ物件ヲ印セシ

(8) モドツク印度人○ナレゴンノ南部ノ界ニ於テ居住スル處ノモドツク印度人ガグラント第二期

ノ期限ニ於テ早ク困難ヲ與ヘシ彼等ハ彼等ノ土地ヲ去ルベク而シ秘密ニ於テ行フベク同意シ
タリシ乍然合衆國ノ官吏ガ彼等ヲ遠ザケルベク企シ時ニ彼等ハ抵抗セシ而シ彼等ニ違スル事
ノ其ガ困難デ有リシ處ノ火燔石ノ寢床ニ於テ逃隱ヲトリシ

(9) 平和ノ委員ガ彼等ト條約スベク派遣サレシ乍然千八百七十三年四月ニ於テ保タレタル會議
ニ於テ叛逆セル蠻人ハ休戰ノ旗ヲ破ツタ而シ委員ノ一人及縣ノ知事ヲ殺セシ(休戰ノ旗ヲ破ルトハ
再ビ抵抗ヲナスノ意)

兇賊ガ捕縛サレシ迄軍ガ然時ニ迫マラレシ秋ニ於テ彼等ハ絞罪ニサレシ
(10) 政府ノ困難ガ南部ノ國ノ各々ニ於テグラントノ第二期限中ニ起リシ別テレイシアナニ於テ
起リシ○茲ニ二人ノ競争セル知事ガ撰舉サレベク請求セシ而シ彼等ノ黨派ガ疎暴ナル衝突ニ
來リシ○大統領ハ彼ガ撰舉セシ通リニ係リシ處ノ請求者ヲ補助スル爲ニ聯邦ノ軍隊ヲ遣リシ

乍然此ハ要用ナル衝突トシテ多ニ依テ視ラレシ○困難ガ次テ新ニサレシ而シグラントノ管政
ノ終ニ於テ其處ニ各定法ノ者デ有ル可ク求ムル處ノ二ノ整理セル國ノ政府ガ有リシ
是管政ノ殘ル處ノ事件ノ中ニ重ナル者ハ次回ノ者デ有リシ○數年間ノ職業ノ強制ニ依テ次ガ
レタル千八百七十三年ニ於テ不幸ナル商業ノ必迫ナリ○彼女ノ軍艦ノ一ニ由テ亞米利加ノ

國旗ヲ保ツ處ノ船ヲ奪フノ所以ニ於テ西班牙トノ困難ナリ○西班牙人ノ議論ニ於テノ船ハ
西班牙ハ管轄ヲ脱スベク試ミテ有リシ處ノキエハ人ヲ助シル爲メニ人及軍器ヲ携ヘテアリシ

トチ主張セシ○是困難ガ平穩ニ定メラレシ乍然凡ソ百人ガ陸地ニ捕ヘラレ而シ刑セラレタ後

撰擧ノ結
果ハ如何

大統領ノ
繼擧者ヲ
問フ

ヘース氏
ノ此時ヲ
問フ

マデハ有テザリシ○第三十八ノ國トシテ合衆ニコロラッドノ認可○總督カスター及彼ノ分隊
ガ殺サレシ處ノ間ガスウ人ノ軍ナリ

(11) 千八百七十六年ノ第百年期ガフヒラデルフヒヤニ於テ總テノ人民ノ工業ノ大博覽會ヲ以テ
拔ンデラレシ○其ハ六ヶ月間開館シテ留マリシ世界ノ凡テノ部分カラ出品人及巡覽人ヲ誘導
セシ而シテ其國ノ安危ガ第百年代其ガ祭リシ處ノ人民ニ迄ノ各ノ名譽デアリシ

(12) 大統領グラントノ繼擧人ニ向テ共和黨ガオハイオノ知事ラザーフオードビーヘースヲ指令
セシ民政黨ハ紐育ノ知事サミスルジエーナルテンヲ指令セシ紐育ノウイリヤムエーデーラ

ーガ副大統領ニ向テ共和黨ノ指名者デ有リシ而シテインジアナノ知事コンドリツクスガ民政黨
ノ指名者ガアツク千八百七十六年十一月ニ於テ保シラレタ機擧ガ多ノ感情ヲ以テ注意サレシ奈
何トナレハ報告書ノ或者ガ論議サレタ○而シテ結果ガ永延ニ疑惑ニ於テ有ツタ故ニ論争シタル
報告ガ彼等ニ於テ判決スベシ命ゼラレタ委員ニ從屬サレタ處デヘース及ビファイラーガ機擧投
票ノ過半ヲ保ツベシ告ゲラレタ任命ガ千八百七十七年三月五日ニ起リシ

第六十八章

ヘースノ管政

(原書二百十二頁)

(1) 大統領ヘースハオハイオニ於テ生レシ彼ハ職業ニ依テ代官士デアリシ而シテ内亂ニ於テ高名
ヲ以テ務メタリシ彼ハ會議ニ於テ彼ノ生地ノ國ニ代表スベシ二回撰擧サレタリシ而シテ大統領
ニ撰擧サレシ時ハオハイオノ知事トシテ彼ノ第三期限ニ於テ勤務シタリシ

大統領ハ
第一ニ如何
ナル事ヲ
注意セシ
ヤ

此ノ時ノ
事實ハ如何

引續ニ於
テ如何ナ
ク
219

(2) ルイシアナ及南キヤロリナニ於テ政府ノ紛論ガ第一ニ大統領ノ注意ヲ求メシ○此等ノ國ノ
各處ニ於テ其處ニ與ニ公平ニ撰擧サレテ持ツベシ要スル處ノ二人ノ競争セル知事ガ有リシ○

各ニ於テ共和黨ノ知事ガ聯邦ノ軍隊ニ依テ支ヘラレシ○此等ヲ大統領ヘースハ彼等自身ノ地
方ノ事務ノ支配ヲ各國ノ人民ニ任シテ退去セシム可ク決定セシ○結果ガ民政黨ノ知事ノ確定
デ有リシ而シテ平和ノ恢復デ有ツタ

(3) 職業ノ汎ク廢リタル強押ガ彼等ノ職業ニ於テ夫等ノ賃錢ヲ減殺スベシ鐵道會社ノ多ニ迫ツ
タリシ而シテ千八百七十七年ノ夏ニ於テ此ガ一般ノ不平ニ迄導キシ○暫時地方ノ或ル部分ニ於
テハ一ノ列車ガ走ル可ク許サレザリシ騷動ガセントロイスノピツパーグチカゴ及他處ニ於テ
起リシ而シテ鐵道會社ニ屬スル處ノ多ノ價ナル所有物ガ損害サレシ此等ノ騷亂ガ鎮定サレシ

ノ其ハ聯邦ノ政府及國民ノ軍隊ノ援助ナシデハアラザリシ

(4) 銀ガ定法ノ價ト額爲ル○銀行ガ千八百六十一年(百九十)ニ於テ金及銀ヲ拂出スヲ停止セシ
時ニ最多ノ部分ニ向テ貨幣ガ融通カラ失ヘシ乍然千八百七十九年一月一日ニ於テ銀行ガ貨幣
ノ拂出始メシ而シテ銀ダケ其ダケ好シ金ガ又一度一般ノ用ニ求リシ是前ニ會議ガ本位ノ銀弗ノ
鑄造ヲ認可シタリシ而シテ負債ガ銀ニ由テ拂ハレ能イシ事程左様ニ定法ノ價格ト其ヲ爲セシ

(5) ユートノ戦争○コロラッドノ西北ノ部分ニ於テ獵シ而シテ耕作シテ彼等ノ野生ノ生活ヲ撰ビシ
處ノ印度人ノ種族ナルユート人ガ居住セシ○千八百七十九年ニ於テ合衆國ノ代理官ガ土地ヲ

キヤリフ
オニヤニ
於ケル支
那人ノ舉
動ヲ問フ

大統領ノ
擧ノ景
況ハ如何

彼等ガ耕スニ於テ主張セシ而シテ彼等カ反對ト而シテ敵手ヲ現ハセシ時軍隊ノ小隊ガ彼ノ威權ヲ保ツ爲メニ進ンタ○彼等ノ秘密ニ於テ白人ノ糧食ニ依テノ通り其ダケ此ニ依テ怒ツテユート人ハ代理官ヲ殺シ軍隊ヲ攻撃シタ而シテ司令官ヲ殺セシ援兵ガ速ニ到着シタ而シテ此等ノ助勢ヲ以テ而シテ親シキ酋長ノ盡力ニ依テ平和ガ終ニ恢復サレタ

(6) 支那人ヲ以テ新條約○非常ナル支那人ノ移住ニ對シテ強キ感覺ガヘースノ期限中ニキヤリフオニヤニ於テ流行セシ○支那人ノ大數ガ續テ其國ニ迄太平洋ヲ渡リテ有ツタ而シテ彼等ノ要用ガ僅テ有ル處テ彼等ハ亞米利加ノ工夫ガ生活ノ能イシヨリハ廉價ノ賃錢ヲ取ルベシ好ミテ

有リシ、斯様ニシテ全ク工事ノ終ノ或ル部分カラ閉チテアリシ○是困難ニ出逢フベク已前ノ國カラ移住ノ管轄ヲ合衆國ニ負擔スル處ノ新條約カ千八百八十年ニ於テ支那人トナサレシ

(7) 千八百八十年ノ大統領擧ニ於テ共和黨ノ投票ガ成功デアリシペンシルヴァニアノ總督ウインフィールドニスハニコツント及イーリアナノ名譽アルウイリヤムエツチイングリフト云ヘ

ル民政黨ノ候補ヲ越ヘテオハイオノ總督ゼームスガーフイルドガ副大統領ニ擧サレシ○總督ガーフヒルドハ千八百八十一年三月四日ニ於テ任叙サレシ七月二日ニ於テ彼ハ失望シタ諸望者ニ由テ華盛頓ニ於テ打倒サレタ而シテ九月十九日ニ生及死ノ間ノ十一週間ノ苦痛ノ後死セシ

(8) 總督ガーフヒルドハ千八百三十一年ニ於テオハイオニ於テ生レシ○彼ノ少壯ガ貧困ヲ以テ

總督ガ
フイルド
ノ生涯ヲ
問フ

大統領ノ
少年ノ時
ノ物話ヲ
問フ

支那人ガ
如何ニ制
限サレシ
カ

一夫多妻
ノ法制ハ
如何

次テ困苦シテ有リシ而シテ彼ハ彼ノ勞働ヨリハ地方ノ學校ニ於テ注意ニ各ノ冬三ヶ月節用スルベシ惡シク與ヘ能エシ○彼ノ十四年ノ時ニ彼ハ工夫ノ商業ヲ學ビシ而シテ彼ノ十七年ノ夏ニオハイオノ掘割ニ於テノ御者トシテ通サレタ抛船道ヨリ吾等ガ見タ如ク彼ハ大統領ノ坐ニ登ツタ而シテ彼ノ成功ノ機會ハ彼ノ忍堪ノ精勉及道理ノ變更セシ熱心ニ於テ見出サルベシアル

第六十九章

アーサーノ管政

(原書二百五頁)

(1) 總督ガーフヒルドノ死ニ依テ副大統領總督チエヌターニアアーサーガ合衆國ノ大統領ト爲リシアーサー氏ハ他ノ自分テ立身シタ人デ有リシ○千八百四十九年ニ於テ聯邦學校ヨリ彼

ノ階位ヲ授與サル、コノ後彼ハ法律ノ學術ニ從事スルコノ間教授スルコトニ於テ彼自身ヲ支ヘシ○彼ハ紐育府ニ於テ彼ノ職業ノ實行ヲ始メシ内亂中援群ナル組織ニ於テ彼ノ撰定セル國家ニ務メシ而シテ千八百七十一年及千八百七十八年ノ間紐育ノ港ニ向テ税金ノ收稅官デアリシ

(2) 大統領ヘースノ在官中ニ流行セシ處ノ支那人ノ移住ニ對シテ年ノ感情ガ十年間其ヲ停止スルコトノ議案ノ議決ニ迄導キシ是議案ガ大統領ニ由テ認可サレシ而シテ千八百八十二年四月ニ於テ法律トナセシ

(3) 罰金及禁獄ニ依テ一夫二婦一婦二夫及一夫多妻一妻多夫ヲ懲罰スルコトニ向テ備ヘル處ノ他ノ議案ガ又大統領アーサーニ依テ認可サレシ

(4) 會議ニマデ彼ノ例年ノ公報ニ於テ千八百八十二年第十二月四日ニ大統領ハ或ル租稅ノ停止

大統領ハ
何チ會議
ニ勸告セ
シヤ

文官改正
ノ議案ハ
如何ニ認
可サレシ
ヤ

リユーテ
ナントク
ノ救助ハ
如何

大統領及
副大統領
ハ誰ガ侯
補者トナ
リシヤ

スルヲ税金ヲ減少スルヲ及印度人ノ位置ヲ改良スルヲニ圖議サレタル考案ヲ採可スルヲ勸告セシ

(5) 大統領アーサー氏ハ又強シ公ノ職務ヲ指名スルノ方法ヲ改正スル或ル手段ヲ採可スルベシ國會ニ報告シタ夫故ニ兩院ハ直ニ文官改正ノ主旨ヲ討議シ公ノ位置ハ議員ノ薦舉ノ代ハリニ難キ試験ニ依テ充サル、處ノ文官改正ノ議案ガ兩院ノ認可ヲ經過シ而シテ千八百七十三年七月ニ法律トシテ實行セラル、最大ナル善事ガ已ニ其法律ニ由テ成シ得ラレタ

(6) リユーテナントクグリリーノ救助○千八百八十四年七月ニ於テ北洋ノ探險者ナルハ殿グリリーハ六人ノ組ト與ニヌミスサウンドニ於テ恐ルベキ死ヨリ救助サレシヲノ新報ヲ受取リシ

○彼ノ人ノ十八人ハ飢餓及露宿ヨリ已ニ死没シタ他ノ日ノ猶豫ガ恐ラシハ總テノ生命ヲ閉クデアラウ(死亡セル者ノ殘ガ僅カ十八人ナリ)○グリリーハ自身ニグリンドンノ内部ヲ探險シ(汝ノ地理學ニ於テ北亞米利シガ是モ既ニ不日ニ死亡セリ)而シテ四千五百英里ノ山ニ大統領アーサーハ名稱ヲ與ヘシ○千八百八十二年ニ於テ彼ノ官吏ノ二人ガ比極アリ唯二百九十英里ニ未タ人ニ依テ到ラザリ

シ最モ此邊ナトグリンドン海濱ニ達セリ
(7) 侯補者ノ指の○千八百八十四年六月ニ共和黨ノ集會ハメイシノジームスブレインヲ大統領ニイリノイズノシマンエーローガンヲ別ニ大統領ト指名セシ○合衆黨ノ集會ハ七月ニニユーヨ一クノグローパーリグランドヲ大統領ニインデアナントーマヌエヘンドリツクニ副大統領

ノ侯補者ニ現ハセシ

(8) 大統領ノ擧舉○大ナル動搖ガ九月ニ於テ擧舉ニ起リシ○爭ハ劇シク且熱心デアリシ○乍然勝利ハ數日間兩方ニ依テ票示サレシモ終ニ合衆黨ニ讓ラレシ

第七十章

クリブランドノ管政

(原書二百二十七頁)

(1) グローパーリグランドハ千八百三十七年ニニユーヨ一クノグローパーリグランドニ於テ生レシ

○彼ハ田舎店ノ番頭ニシテ生活ヲ始メ彼ノ十八年ノ時ハアフロノ法律所ヲ以テノ位置ヲ得テ而シ一日間ノ值四弗ニ向テ働キシ○法律ヲ彼ノ職業ト爲シテ彼ハ法庭ニ於テ著名ニナリ

シ而シテ千八百八十一年ニハアナアローノ知事ニ擧舉サレシ○知事ノ間ニクリブランド氏ハ公正ニ迄彼ノ嚴格ナル結合ニヨリテ非常ニ人望ヲ得シ○千八百八十二年ニニユーヨ一クノ知事ニ擧舉サレテ彼ハ彼ガ契約セシ如ク深切ニ人民ニ勤撫セシ而シテ千八百八十四年ニ人民ハ彼等

ノ賜物ニ於テ最モ高キ職務ヲ以テ彼ニ報イシ

(2) シリブランド氏ハ千八百八十五年三月四日ニ合衆國ノ大統領ニ任セラレシ○彼ノ任命式ノ演説ニ於テ文官任用法ノ改正ノ好愛ニ於テ彼自身ヲ告ゲシ而シテ黨派心ヲ去テ彼等ノ信實ナル助ヲ公正ノ政事ニ與ヘテ人民ニ普通ノ政府ヲ與ヘルベク總テニ於テ喚ビシ

(3) 總督グランドノ死去ハ千八百八十二年七月廿三日ニニユーヨ一クノグローパーリグランドニ於テ起リタ

○數月ニ向テ多ノ戰爭ノ勇士ガ痛シキ病ニ對シテ勇マシク戦ヒシ(昔シ戰場ニテ強キ勇將ナルグランド氏ハ今病ト勇マシク戦カッタガ流石)

何如ニ大
統領ハ演
説ヲ爲セ
シヤ

クリブラ
ント氏ノ
履歷ヲ語
シ

クリブラ
ント
將軍ハ死
シテ何處
ニ

224
ニ埋葬サ
レシヤ
千八百八
十五年ノ
勞働ノ困
難ノ物語
ヲ説明セ

ノ勇將ヲ病ニ) ○彼ノ殘餘ハニユーヨーク府ノソヴアサイト公園ニ於テ一時ノ洞穴ニ於テ置カレ
ハカナハマ) ○其準備ノ墓碑ガ彼ノ記憶ニマデ建築サル、デアラウ
シ其準備ノ墓碑ガ彼ノ記憶ニマデ建築サル、デアラウ
(4) 千八百八十六年ノ勞働ノ困難 ○千八百八十六年ノ春ノ間ニ國ガ同盟及勞働ノ困難ニ由テ亂
サレシ其ハ五月四日チカゴニ於テ破裂黨ノ破裂ニ於テ達セシ ○多ノ亂暴者及巡查ノ數多ガ列
序ガ恢復サレシ前ニ彼等ノ生命ヲ失ヒシ ○大統領ハ傭主被傭人ノ間ニ差ヲ置クノ適宜ノ方
法トシテ和解ヲ告ゲシ

版權登錄

シツツケ
ンボス氏 合衆國史直譯講義終

明治廿二年二月廿四日印刷
明治廿二年二月廿五日出版

定價七二錢

(ツツツケンボス氏合衆國史直譯)

東京芝區西久保城山町八番地

發行 者 戶 田 直 秀

東京赤坂區青山南町二丁目廿三番地

譯 者 藤 井 政 景

東京々橋區錦屋町九番地

印刷 者 坪 内 直 益

東京々橋區銀座二丁目

發兌 元 細 川 芳 之 助

京都府下寺町三條上ル

全 細 川 清 助

版權
所有

發 兌 書 目

- ロングマンズブライマー 第一 全一冊
ロングマンズブライマー 第二 全一冊
ロングマンズインハントリーダー 全一冊
明新 治撰 和 譯 英 辭 林 全一冊
(一名細川版字書)
袖珍 珍圖 和 譯 英 辭 書 全一冊
(一名長谷川字書)
ロングマンズリーダー第一獨案内 全一冊
ロングマンズリーダー第二獨案内 全一冊
ロングマンズリーダー第三獨案内 全一冊
ロングマンズリーダー第四直譯 全一冊
スウポイントンリーダー第一獨案内 全一冊
スウポイントンリーダー第二獨案内 全一冊
スウポイントンリーダー第三直譯 全一冊
スウポイントンリーダー第四直譯 全一冊

31

1

21

